

幼 兒 教 育

第 三 十 九 卷 十 二 月 號 第 十 二 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本的旗日の丸の旗
倉橋惣三 作詞
小松耕輔 作曲
次 道 ぶ し ん
倉橋惣三 作詞
井上武士 作曲

いうびんやさん
倉橋惣三 作詞
弘田龍太郎 作曲
渡し場の船頭さん
倉橋惣三 作詞
中山晋平 作曲
火消しのなちさん
倉橋惣三 作詞
小林つや江 作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目 だ か
山村耕輔 作詞
小松耕輔 作曲
次 雨
小松耕輔 作曲

ほ た る
青山綾子 作詞
小松耕輔 作曲
ふ し ん 場
小原銀 作詞
小松耕輔 作曲

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。

生徒募集

本科生 四十名 研究生 若干名

願書受付三月二十日迄規則書は参錢切手
封入の上申込まれよ。

玉成保姆養成所

所長 ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線 西荻窪下車直南約五丁

創立以來廿五年。

大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、

附近に森あり、野あり、川ありて四時自

然の恩恵を受け、本校の特色とする自然

觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用

の手工等材料豊富なり。

幼兒童話及幼兒唱歌募集

—フレーベル賞による懸賞募集—

先年株式會社フレーベル館高市社長より同館創業三十周年記念として、保育資金一千五百圓を全國保育界に對して提供せられ、その使途につき本會に委託せられましたことは度々本誌上に御報告申上げた通りであります。よつて本會はそのため特に實行委員諸氏を御委嘱し、協議の上、童話手技等の懸賞募集を行ひ來り、いづれも好成绩を擧げましたことも御承知頂いてゐるご存じます。今回は更に募集範圍を擴大して、幼稚園の方々の外、小學校教育御關係の方々にも御應募を乞ふことゝしました。廣く多數の優秀作品を得たいご期待して居ります。左の規定により盛に御應募下さるやう願ひます。

(一) 童話募集規定

— 應募作は幼兒に適する童話たること。

— 主題、内容、長短は隨意。

— 幼稚園、託兒所保母諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

— 應募篇數任意。お一人にて兩方に應募せらるゝこと素より任意。

— 原稿紙にペン書のこと。

— 應募者は宿所、氏名(謄上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

— 日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)童話募集掛宛のこと。

— 締切 昭和十五年二月末日

發表 昭和十五年六月一日本會發行の「幼児の教育」誌上。

一 入選作は本誌に掲載し、賞状及賞金を贈呈します。

一 フレーベル賞

一 等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

一 審査(五十音順)

一 小川未明氏 及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 齒氏 久留島武彦氏

一 原稿は一切返却しません。

一 尚御不明の點は往復はがきで本會董話募集掛宛お問合せ下さい。

(二) 幼兒唱歌募集規定

一 應募作は幼兒にうたはせるに適するものたること。

一 主題、内容、長短は隨意。

一 幼稚園、託兒所保姆諸君及び小學校教員諸君の自作たること。(舊作にてもよろし)

一 應募篇數任意。お一人にて兩方に應募せらるゝこと素より任意。

一 原稿紙にペン書のこと。

一 應募者は宿所、氏名(誌上匿名隨意)及び奉職園校の名稱、所在地を明記のこと。

一 日本幼稚園協會(東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内)幼兒唱歌募集掛宛のこと。

一 締切 昭和十五年二月末日

一 發表 昭和十五年六月一日本會發行の「幼児の教育」誌上。

一 入選作は本誌に掲載し、賞状及賞金を贈呈します。

一 フレーベル賞

一 等一名金參拾圓 二等一名金貳拾圓 三等一名金拾圓 選外佳作若干名(賞品贈呈)

一 審査(五十音順)

一 小川未明氏 及川ふみ氏 岸邊福雄氏 倉橋惣三氏 葛原 齒氏 久留島武彦氏

一 原稿は一切返却しません。

一 尚御不明の點は往復はがきで本會幼兒唱歌募集掛宛お問合せ下さい。

昭和十四年十一月

東京市小石川區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

法政大學
教授

城戸幡太郎先生著

(最新刊)

菊判二五〇頁 定價一圓八十錢
布裝上製函入 送料十六錢

幼兒教育論



興亞日本の建設發展のために、輝ける本書を全保育人に贈る

健全なる國民の育成こそは、幼兒の保育よりスタートせねばならぬ強く正しく導くために、幼兒教育の新組織を樹立し全問題を解明した最も科學的な幼兒教育論である

— 網 大 次 目 —

- I 就學前教育の重要性 ○我等は何をなすべきか○幼兒教育の歴史と問題○幼兒教育と國民教育○幼兒生活と保育者
- II 社會事業と保育事業 ○フレイベルとオーウエン○社會事業と兒童問題○貧困兒童の問題○農業期託兒所の問題○農村における保育事業の託兒所と母親學校
- III 保姆の立場と教養 ○利用厚生教育○保姆は子供に何を求むべきか○子供は保姆に何を求めてゐるか○保姆の教養○保姆養成の問題
- IV 幼兒教育の研究法 ○學問研究の態度○兒童心理學の發達○保育問題の解決法○自由遊びについての調査○遊具と幼兒の社會性
- V 幼兒生活の指導法 ○幼兒指導の態度○幼兒と言葉の訓練○子供の問と答○子供の嘘について○子供の生活指導○兩親教育の問題

生活技術と教育文化

法政大學教授 城戸幡太郎著 至一・八〇 下二一六 四六判 二五三頁

兒童心理學

東京帝大講師 青木誠四郎著 至三・五〇 下二二四 菊判 四四〇頁

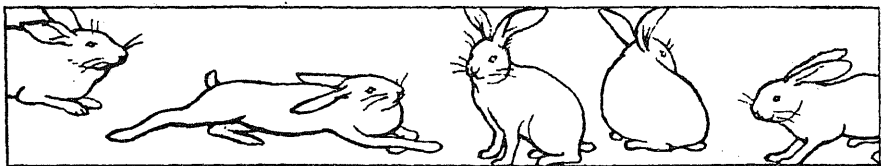
兒童生活と學習心理

東京文理大講師 波多野完治著 至二・八〇 下二一六 菊判 三九〇頁

教育は國民に國民としての生活技術を教へる技術である」と喝破して教育の正道を明かにす。教育實踐上に直ちに活用し得る兒童心理學を明快なる理論と整然たる體系の下に論述す。著者の全心理學的知識を總動員して兒童及教育實際上の諸問題に解決を與へたもの。

館文賢

東京電振
電話九
神田區
田四〇
一〇五
橋本一
六八



第 九 十 三 卷 幼 兒 教 育 第 二 十 號

目 次

國民保育者……………	倉橋惣三(一)
新支那の教育復興を視る(二)……………	倉澤剛(五)
松ミ竹……………	堀正一(九)
冬期・幼稚園に於ける疾病豫防……………	廣瀬興(三)
殘花聚園(十一)……………	石川謙(六)
餅の的(風土記から)……………	石井庄司(三)
北國の冬の幼稚園……………	今きよ(二五)
幼稚園と尋常小學校との連絡に関する資料調査(四)……………	東京市保育會(二七)
幼時の追憶……………	會根保(三)
ハイデイ——ヨハンナ・スピリ原作……………	津田芳雄譯(四)
第七回全國幼稚園關係者大會……………	(五)
本誌三十九卷總目錄……………	(六)

草川 信・坊田かずま 兩先生編
唱ひ方の附いた

(新刊)

新幼稚園唱歌

四六倍判美本
定價金八拾五錢
送料金拾二錢

可愛い幼兒の唱歌として又子女を愛する「母の歌」としてこの美しい御本を皆様に薦めいたします。各幼稚園各家庭から續々御注文を頂いてゐます。

草川先生作曲 タンポポ(中村雨紅)夕燒小燒(同上)ヨロヒムシヤ(河井醉名)ままごこ(濱田廣介)舟遊び(野口雨情)夕立(濱田廣介)波のりあそび(同上)ナツヤスミ(河井醉名)おもちゃの舟(野口雨情)子ねこの目(濱田廣介)ジャンケンボン(野口雨情)山の兎(濱田廣介)おはやう(同上)だるまさん(野口雨情)花咲爺(同上)

坊田先生作曲 わたしの幼稚園(三宅のぶ子)赤ちゃん(同上)鯉のぼり(達崎龍一)遠足(三宅のぶ子)子雀おや雀(相馬御風)七夕まつり(渡邊千秋)お早やう(三宅のぶ子)可愛い兎(同上)飛行機(同上)ドナタの細道(同上)千代田のお城(野口雨情)正月來い(三宅のぶ子)ひなまつり(渡邊千秋)花まつりの歌(同上)仔熊のお角力(山北しげり)〔括弧は作者〕

林松木先生著

新刊 詳述 明解 唱歌 教授 辭典

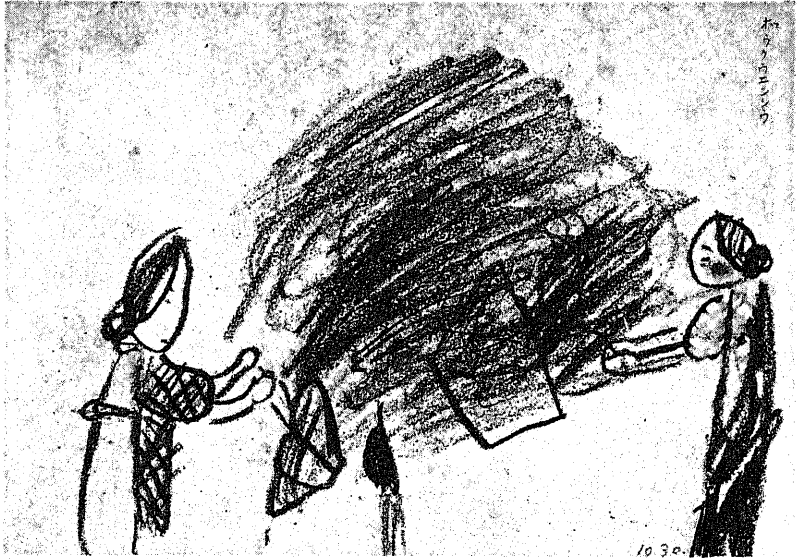
定價金壹圓千九錢

エホンシヤウカ	ハル・ナツ・アキ・フユ	各.35
エホンシヤウカ	第ナツ・アキノマキ	各.40
坊田 又リエシヤウカ	各.35	各.03
かすま	各.60	各.08
子供の舞踊	一、二	

振替東京東田電話 〇七四六〇三 會協版出書育教樂音 區田神市京東 一十ノ三町錦

幼 児 の 教 育

昭 和 十 四 年 十 二 月



この頃の幼児の自由画にはニュース映画のやうなところがある。取材が今に即し、その時々々の社會時事を、すぐ早く反映する。これは、昔の手が、あねさまばかり描いたり、自動車ばかり描いたりしたのところがふ。ところで、此のどつちがい、かは簡單には分らない。一つものばかり描きつゞけてゐるのは、その畫題への深潜さに於てなか／＼貴いところもある。たゞ、興味の偏狭や、殊に、自己暗示であつたらつまらない。憂ふべきでもある。その反對に、取材の多様も、單なる氣まぐれや新奇辭であつては感心しないが、興味の擴大、もつと強く言つて、社會關心の強さであつたら、相當取り上げてやらなければなるまい。

こうなると、描き方なんていふ問題ではなくなる。保姆さんの方でも、あねさま、自動車で、うっかりしてはゐられないことになる。(倉橋生)

國民保育者

倉 橋 惣 三

國民教育者といふ言葉がある。國民保育者といふ言葉の成立も當然である。たゞ、保育は教育に比して、一層情愛的で、即ち、一層對個人的であるところから、その優しさが主調させられて、國民保育者なさいふことが、なんさなく大げさ過ぎて感じられたりする。しかし、勿論、國民保育者である。

さて、その國民保育者といふことの意味であるが、先づ考へられることは、幼兒達を立派な國民に育て上げるさいふことである。これは國民教育といふ時にも同様である。兒童を國民に仕上げることを、その意味としてゐる。この意味に於て、國民保育の必須緊要なるは言を俟たない。それは國家の目的であり、その大切な目的のために働く、保育者の任務である。このために、種々の重要な點が注意せられなければならない。さうして國民感情を涵養すべきか、さうして國家觀念を培養すべきか、更にそれらのために、保育の全面に互つて如何なる用意が行渡らなければならないか、如何なる特別の方法が講ぜられなければならないか、みんな保育者の大事な研究であり、日本の保育者の特に留意する點である。殊に、現下時局の自覺によつて、これが格別に意識せられ來つてもゐる。

たゞ、強めていへば、此の點の意識は同一であつても、その方法的顯著さに於て、保育の場合には、教育の場合よりも、換言すれば、幼稚園の場合は、學校の場合よりも、濃厚強烈でないことを免れない。何分にも、あの幼児達である。その遊びを以て保育の接觸面としてゐるのである。兒童に對し、殊にその理解に對してゐる教育の場合には、おのづから色調の異なるところあるのは當り前である。しかも、これが故に、保育者の方の此點に關する意識に用意が、少しでも稀薄であつていゝ譯ではない。否寧ろ、却つて明確強固なるものがなければならぬことを言はれる。

兎に角く、國民保育者の一つの意味は、國民に仕上げるこいふ、目的からの意味である。

二

しかも、國民保育といふ言葉のもう一つの意味は、國民に仕上げるこいふ前に、その一人々々の幼児が、一個の國民であることの認識の下に保育する意味である。前の意味、即ち國民への仕上げこいふことを主としてゐる場合でも、幼児、兒童の現に國民たることを無視してゐる譯ではない。しかし、目的の方への國民的意識が強いために、對象の方へのその意識が弱からざるを得なかつたりする。そこで、特に對象への意識を強めて考へやうとするのである。國民に仕上げることの必要は言ふまでもないが、先づ、此の子が今現に國民であることに於て見られなければならないのである。

幼児保育の發動は、昔からの例を見ても、今日行はれ得る諸例を見ても、極めていろ／＼であり、いろ／＼であることを咎むべきではない。或は幼児愛からも行はれる。幼児憐憫からも行はれる。幼児の心理的認識からも行はれる。人道主義的でもあり得る。社會改良的でもあり得る。恐らく、此のいろ／＼の適正なる綜合に、幼児保育の望ましい發動があるといはれるのであらう。しかし、これらだけでは足りないところがある。その子が國民であるからこいふことに發動するところなくして、眞の保育精神の發動さはいへない。我國に於てはさうしてさうである。

教育にせよ、保育にせよ、目的ばかりでは出来ない。その對象の尊重がなくては出来ない。その尊重の仕方にもいろ／＼ある中に、國民としての尊重に基いて行はれてゆくのが、國民教育であり、國民保育である。

國民として見る時、眞に萬人一如、ごの子ごもも、みんな子ごもも、同一の尊重を拂はるべきであると共に、その一人をも輕視し、無視することゝゆるされないのである。富める家の子も、貧しき家の子も、優秀兒も劣等兒も、強健兒も虛弱兒も、國民たることに於て差別はない。従つて國民なるが故に大切に保育するごいふ心の前に、何の差別の立てらるべきでない。況んや、保育者の個人的好惡や情實で、國民としての子ごもに差別をつけることは、全くゆるされない。

三

國民として見、國民としての認識の下に保育する以上、その保育は當然、國民的になるのである。茲に於て、國民への仕上げのためごいふごそのごが、先づ、初めから國民を保育してゐるごいふ意識の上にごそ、眞に成立するのである。所謂人道主義教育は、人間だから人間的に扱ひ、以て人間にするごいふごである。人間に仕上げるごいふごよりも、人間として見るごいふごが、先づ主になつてゐるのである。國民主義教育又保育の場合に於ても、同一の論法が用ゐられる。だから、兒童を國民として認識することの明確強固なるものゝみに、眞の國民保育が出来得るのである。

ごところで、相手を人間的に見得るごは、その人自らの人間たるごによるのである。その論法に於て、相手を國民として見るごの強さは、その人自らの國民的自覺の強さによるごいつていゝ。勿論、自分が國民たるの意識に強いつ時、相手のもつ國民たるの意識が批判せられ來たりもするであらう。しかし、その批判がいづれであるにせよ、相手が國民たるごの事實は、強く／＼認識せられるのである。國民だから、國民意識の薄弱が憂へられるのである。國民であるからこそ眞に國民たらしめずには置かれないのである。ごに、國民保育の中心意義がある。

以上の意味に於て、ごいふ方法で國民に仕上げやうかの攻究よりも、相手を、あの小さい幼兒を、必ずしも優秀ならざる幼兒をも、しつかり國民として認識することに、國民保育のための先決要件だごいふごがいへる。曰く何、曰く何ご國民保育の方法の攻究せられるご如何に多くごも、此の先決要件が、保育者に充分でないならば、一切は、空ではないが、極めて力の弱いものに過ぎないであらう。

四

人間が人間を保育してゐるさいふことが、人道主義保育の妙諦である。同様に、國民が國民を保育してゐるさいふところにこそ、國民主義保育の妙諦があるのである。そこはさゝやかな農村幼稚園であらうとも、貧しきカード地區幼稚園であらうとも、幼稚園の庭の幼児との嬉戲の間であらうとも、幼児のために些細の世話をしてやつてゐる時であらうとも、國民が國民を、その國民たることの認識に於て接觸してゐるところに、國民保育の妙諦があるのである。敢て妙諦さいふ。實に妙味の津々たることではないか。國民に仕上げるさいふことは、ひたすら嚴肅なる必要である。國民が國民に接するの場面としての事實の情景は、必要よりも、目的よりも、味である。盡き難い味である。

斯う説いて來て、今更に、更めて、保姆諸君の國民的自覺を喚起しやうとする譯ではない。それはもう既に備つてゐることである。たゞ相手が、幼児であるところから、その國民的認識が、青年教育の時よりも、少年教育の時よりも、つい淡いでもあらうかを危惧するのである。しかも、その怠慢と錯誤をおかさないうところに、幼児保育者の専門者としての特質があるさいはなければならぬ。たひらに言へば、あの小さいものを、一個の國民として尊重し、之れに奉仕するの心を以て保育の任に當るところに、保姆諸君の、他人の及び難い、最も根本な點があるのである。だからこそ、それさへ眞にあれば、あの小さいものを、立派に國民に保育し得るのである。

五

私は國民々々さいつた。陛下の赤子さいふ言葉を以ていふならば、之れを先づ認識し、尊重するところに、國民保育の根本意味のあるところが、もつと明らかにされ得るであらう。

新支那の教育復興を視る(二)

東京女子高等師範學校助教

倉澤剛

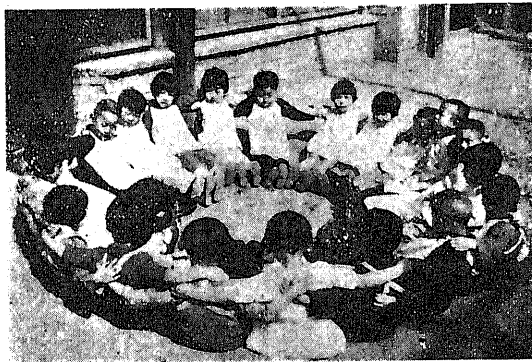
○
新支那に於ける幼稚園の状況を見ますに、それは未だ全く緒に就いて居りません。情ない位に顧みられてゐない様子です。まるで未だ普及されてゐませんし、偶々幼稚園があつても、まるで原始的なもので可愛さうな位です。上海には相當な幼稚園がかなりありますが、それは全部英佛租界に集つてゐて、日本租界や支那街には殆んどありません。蘇州や南京にも見るべき幼稚園は一つもないやうです。一般に中支はすべての教育がおかれてゐますから、幼稚園の振はないのも當然のことです。さすがに北支は一般の教育が進んでゐますので、幼稚園にもやゝ見るべきものがあります。まづ天津には天津特別市立の幼稚園が五つありまして、この中の二つは獨立し、三つは市立小學に附設されてゐます。他に私立の小學その他の學校に附設されてゐる私立幼稚園が一〇あります。市立幼稚園五つで幼児數三七〇ミ申しますから一園平均約七〇人、私立幼稚園は一〇で幼児數四八〇ミ申しますから一園平均五〇人足らずになりま

す。小學校の一隅に五〇乃至七〇の幼児が、せいふくお砂場さすべり臺ミ机・椅子位の配された狭いところに、二組位に分れて遊んでゐるやうな圖をお考へになつたら、ほと支那の幼稚園が想像されます。但しこれは支那人の幼児のための幼稚園のことで、英佛租界にはなかく立派なものがあり、日本租界の幼稚園もすばらしく堂々たるもので、内地にもあれだけの幼稚園はさうさらにはありますまい。それから北京には市立のものが五つ、私立のものが六つあります。幼児數は天津よりも大きく、市立では一園平均約一三〇、私立では一園平均約八〇に上り、規模もいくらかよくなつて居ります。この外に國立師範學院や同女子師範學院——これが日本の高師及び女高師に當ります——に附屬した幼稚園がありますが、さすがは立派なもので、設備さしいひ、校舎さしいひ、殆んど日本一流の幼稚園に比して見劣りが致しません。たゞ遊園だけは餘りに狭く、且つ平面的で、誠に趣味がなく、これではよき保育も望まれまいと感じました。一般に支那の學校は運動場が狭く、甚だしきは

全くこれを缺くものさへあります。私は中國の教育のために何よりもこのこを残念に感じましたが、幼稚園についても全く同じであります。

○

私達は天津特別市立第五小學校の附屬幼稚園を視察いたしました。校長は石連璧さいふ三十四五歳の婦人で、天津の女子師範學校を卒へたし、九年目さか申して居ました。この女子校長のほかに約二十人程の教員が居りますが、それが皆女子です。生徒も女兒のみを收容してゐる女づくめの小學校ですが、それでゐる校舎も清潔に、經營も行届き、今では天津での立派な模範學校とされてゐます。この小學校に附屬してゐる幼稚園を視察しましたが、それはこの小學校の一隅にほんの一室保育室をもち、その前に小さい砂場さ、一寸したすべり臺を具へた、箱庭のやうな遊園をもつてゐるだけ、その保育室も採光が悪く、日當もよくないので、何か暗い、じめんくした感じですよ。さうもこれではよい保育が行はれようとは思はれません。生憎八月のこさですから、幼兒はお休み中で、活動の有様を視るこが出來ませんでしたので、成績品を見せて頂いたり、校長のお話を伺つたりして辭去しました。聞けばこの校長さんは抗日派の手にかゝつて頭部を撃たれた由で、このさきも頭にまだ繃帯をして、それを帽子で掩ふやうにしてゐました。



天津市立第五小學校附屬幼稚園

六

しかし、そんなこで挫けるやうな私でないさ、微笑の中にも雄々しいこころを見せてゐました。さも角、模範學校といはれる學校の幼稚園でこのやうな情況ですから、他は推して知るこが出來ます。考へてみますさ、事變が收まつてまだ僅かに二年、まだく治安第一主義の段階を脱しない支那にさつて、教育の不振はもさより當然のこさ、申さねばなりません。それにしましても、支那の文化なり民度なりはまだ極めて低く、幼稚園に對する一般の理解はまだ頗る乏しいやうです。それにつけても、私達は日本の子供は仕合せださつくく、思はないでは居られません。さうして、支那の小學校が略々整ひましたら、その次には幼

稚園の普及を圖つて、幼いうちに日語を覚えさせ、同時に日本及び日本人に親しませることが大切だと思ひました。政治や經濟による日支の提携も大切ですが、教育によつて内面的に結び合ふことは更に一層大切ではないでせうか。そして同じ教育でも、いはば「白紙」にも似た純な幼な心の中に、日本の意識をいつかはなしに培ふのが何よりも効果的ですから、この意味に於て幼稚園の普及は小學校の普及と共に極めて大切な意義をもちます。興亞院でもだん／＼考へて行くことゝ信じてますが、日本の幼児教育關係者もこれに對して關心を深め、應分の力を盡していただきたいと存じます。

これと關聯して一つ異色のある施設を視て來ました。それは山東の濟南にある「私立濟南高等文化學院」に申す家塾様の學校です。これは志水儀亥氏といふ信州出身の熱血の人が、その妻と娘と、一家擧つて支那の兒童のために起つてゐるのです。日支百年の提携を圖るには、何よりも支那の兒童を扱へなければならぬ。そのためには、知識を授ける學校も必要であるが、同時に日本の風俗習慣に親しませ、日本の禮儀作法に慣れさせ、いつかはなしに日本への愛を培ふといふ教育は一層必要である。これが志水氏の認識と信念とでありました。そこで同氏は疊式の同家をす

つかり開放し、支那の十歳前後の男女兒二十數人を預つて、これに衣食一切を支給して、「お早う」から「お寢み」まですっかり日本式にしつけ、いつかはなしに日語を覚えさせると共に、日本人の考へ方、感じ方、行ひ方に慣れさせたのであります。一家を擧げての獻身的努力はすばらしい實を結び、今年四月から始めて、この七月末に第一回の卒業生を出したのですが、子供はすっかり日語に上達し、日本の唱歌を覚え、家人に親しみ、如何にも純な親日家の卵を育くんだのです。略々四箇月を一期として、次々にこの種の教育を進める計畫ださうですが、第一期の卒業生が別離を惜しんで、なか／＼引上げようませず、私達が参りましたごきも、まだ十五六名の可愛い子供が嬉々として勉強してゐました。私共の訪問を喜び迎へて、一人の子供が代表して演説口調の歓迎挨拶をしてくれ、日本の國定教科書を読み、日本の唱歌を合唱しましたが、日本の子供達と少しも違ひません。如何にも可愛らしいので、下村校長先生も碎けた調子で親しげな御挨拶をなさいましたが、私は實にいなご胸の躍るやうな思ひがいたしました。支那に來てゐる日本人の中に、志水氏一家のやうな立派な心掛の方があることを、私は本當に誇らしく、力強く思つたのであります。大陸に來て立働いてゐる日本の方々、一人残らず志水氏一家のやうな氣立てで中國の人々に對するのだつ

たら、東亞新秩序の建設は期して待つべきであります。

○

人のまごころは國境を越えて互に相通するものだと思ひます。私は今度の支那旅行を通じて、多數の中國教育者との語る機會を得ました。中には實に生涯忘れることの出来ない友情を交して來た人々があります。ちつと眼をつむるに、幾たりかの忘れ難い中國人の温顔が心に浮んで参ります。日本人の妻をなくして、うるみがちな眼にも喜んで私達を迎へて、中國女子教育の缺點などを語つてくれた江蘇省教育局長の秦氏。私達の訪問を喜んで何くれと上海の教育事情を説明してくれ、剩へ私達の宿舍へ單身答禮に見えて、下村先生と悠々筆談を交はして去られた上海市教育局長の陳氏。蘇州の學校や寒山寺・留園などの名勝を一日掛りで案内してくれ、晝食をすゝめながら日本の高等師範に學んだ當時を懐しく話してくれた江蘇省教育科長の彭氏。わざ／＼私達を晝食に招いて、日本の青年學校の仕組などを細々と尋ねては、想を練るやうに老顔を傾けてゐた維新政府教育部長の顧氏。さては抗日一味の兇彈を肩のまごころに含みつゝ、こんなことがあればあるだけ、中日提携の決意は強くなるばかりです。いひながら、何か力ない顔ばせが苦になるやうにしてゐた天津市教育局長の何氏。いつもにこ／＼して日本留學當時の昔語りには打興じ、ユーモア交へ

八

て日本語を實によく話す國立師範學院長の王謨氏。謹嚴のうちにも温顔をほころばし、留日學生のまごころをくれ／＼も頼みます。親心をこめて語り、わざ／＼好きな書をもつて土産にしてくれた臨時政府教育部長の湯先生。それから雄大な體軀を動かしながら、諄々として教育の理想を語つてくれた山東省長の唐氏。はたまた偽り飾るまごころなく、朴素な日本語で遠來の勞をねぎらつてくれた河北省長の周氏。かう數へてゆくに、次から次へまごころ忘れない中國教育者の顔が幾つも／＼去來してゆく。この人々は私達の語るまごころもよく聞いて下すつた。私達もまたこの人々の語るまごころをよく聞いて上げました。何かすつきりとした、胸を披いての人間の交渉でありました。私はそこにたしかに相互の信頼感が盛上るのを感じました。そこに醸される友情は、もう日本人たり支那人たるの國境を越えてゐるまごころを私ははつきり感じました。日支教育者の提携に依る新東亞の建設、今こそ私はこれを不可能事とは到底考へられなくなりました。

松と竹

東京府大泉師範學校教諭理學士

堀

正

一

(一)

年のはじめには、何處の家でも門松を立て祝ふのが慣しになつて居る。元旦に立てるのを嫌つて大抵は年の暮に立てる。この門松の材料となるのは、所によつて差異はあるが概ね松と竹である。この松と竹の飾りの上に、しめ繩をかけ、又齒朶やゆづり葉を併用して飾りとする。古くは竹の代りに櫛を用いたものらしい。

何故正月の祝の飾りとして門松を家の前に立てるであらうか。

世諺問答を繰つてみるに「門の松立てるは昔よりあり來れることなるべし。松はちみせをちぎり、竹はよろづ代を限る草木なれば、年のはじめの祝ひ事に立てるべし。齒朶ゆづり葉は澤山にありて霜露にもしほれぬものなれば、しめ繩にかざりて同じく用ひ侍るにや」と書いてある。松は木の公と書き、木の中では最も品格の高いものと云はれ、その上常緑木で霜雪に傷まず、常に青々として一年中色の變ることが無い。竹も同様に色が變らず、その上に、節が多

く弾力があり組織は至つて堅固である。この竹の節を人間の節になぞらへて、これにあやかること云ふ意味から竹を使ふ様になつたものと考へられる。

門松の材料となる竹と松に就て、次に植物學上の解説を試みることにしよう。

(二)

松は前述した様に木扁に公を書き、樹木の公符である。

古くより吟詠の材料になつて居る。日本で極く普通に見られるのは、黒松と赤松である。黒松は多く海岸地方に見られ、強烈な潮風が吹く海邊に良く耐へて生活して居る。幹は潮風のため屈曲し、針は太く、膚は黒つぽく、見るからに勇ましい。

赤松は山野に普通に見られ、膚は黒松に比較するに赤色を帯び、兩者の區別は至極容易である。葉は細く、葉の色は淡緑で柔かく、庭園などに植ゑるのに適常して居る。深山に行くに五葉松と偃松がある。偃松は針葉樹林帯よりは更に高いところに生育する。お花島と共に、高山に登る

ものによつて忘れがたい印象を残すものである。琉球には琉球松、朝鮮には朝鮮五葉松、臺灣には支那松がある。

アメリカには亞米利加松云ふのがある。關東大震災のあき、東京市の復興のため盛にアメリカより輸入され、俗に米松云はれ材木は樹脂が多く出て困つたものである。

外國の寫真なきに見る松は、何まなく異様に感じられ、日本の風土に適して居る赤松や黒松の景色に見慣れて居る我々には一向に善感が起らない。武藏野の赤土に調和する松の緑、海岸の黒松、深山の五葉松、高根の偃松なき日本の風土あつてこそ日本特有の風景を作つて、それ々の場所にそれ々、釣り合つて居る。

松の美觀は時々場所まで一様でない。春先に新しい葉を出して來た時、花が咲き花粉の飛ぶ頃、又は冬枯まきの青さ、それ々の趣がある。小松の多く生えた山、老松が數本孤立した峠道、海岸の屈曲した松、川岸に並ぶ松、東海道並木道の松、神社の廻りに植ゑられた古木なき、日本ならでは見られぬ景色である。須磨舞子の松、尾上の松、高砂の松なきは、花崗岩の風化した白砂ま共に關西特有の白砂青松の美觀を呈して居る。松島、天の橋立、田子の浦、三保の松原なき名勝の地では必ず松が一役買つて居る。

松の花は美しくない。裸子植物であるため櫻、梅、桃なきの如き美しい花びらは無い。五月の初めになるま、新ら

しく延びた枝の先端に雌花がつく。雌花の下部には、約二十糎ばかりの間に無数の雄花が出来る。雄花は成熟するま、春風に吹かれて、煙の様に澤山の花粉を飛ばす。花時になるま、松の木から澤山の花粉が吹き飛ばされるのを屢々見るこがある。雌花は、若い内は、赤味を帯びた球狀の突起に過ぎないが、雄花から出る花粉がついて受精するま、次第に發達して大きくなりピンポンの球位の大きさになる。翌年になるま始めて種子が完熟し、松かさの鱗片の間にある翼を持つた種子が風に吹かれて飛散する。種が飛び去つたあきの殘骸を、我々はまつぼっくりま愛稱する。まつかさは細工して名所みやげになつたりして居る。朝鮮では不老不死の藥として、まつのを食べる。

松ま密接の關係あるものに、松茸ま松露がある。松茸は關東の如き赤土には生じない。關西の花崗岩の風化した土壌に好んで生育する。松露は、海岸なきの砂地に生じ、字の如く松の葉の露が落ちる様なまところに生ずる。共に松の下に生じ決して他の樹木の下に生じないまところを見るま、何か、松から特有の養分を得るものま考へるが、その詳細は明らかではない。

(三)

竹には色々の種類がある。筍を食用にするモウソウチク、マダケの外に、ハチク、メダケ、タウチク、クマササ、チ

ゴササ、オカメササの如く、北は北海道から南臺灣に互り、十一屬一〇〇種以上もあり、變種を入れると一五〇種にも達し種類の多いことは世界一である。稻、麥など同様に禾本科に屬するものであるが、稈が木質化して非常に硬くなり、節を生じ、麥や稻の如く一年で枯れることなく、多年生きて居て、葉は常に青くよろず代を限る云はれ、めでたい草木の中に入つて居る。竹が綿雪の重さで打ち曲つて首をさげた様な姿勢をこり、雪の白ささ竹の青さが、えも云はれぬ調和を保ち、柔らかな景觀を呈するのも良い趣がある。

竹の花の咲くのは珍しい。俗に竹の花が咲くと竹が枯れる云ふ。これは竹が成長しつくして壽命が来る様になる。竹の生理状態が悪くなり開花して結實する。従つて花が咲くと竹は枯れるのが普通である。

竹は主として地下莖によつて殖える。竹の根本の土を掘り取るに、地上部と同じ様に節のある地下莖が、うねうね匍匐し、波状になつて蔓延して居る。所々彎曲部が地表にまで現れて居る。地震のときは竹藪の中に入れば良い云ふのは、竹藪には竹の地下莖が無數に網目状になつて居て、容易に地面が割れぬ故である。地下莖は年々成長する。食用とするモウソウチク等の地下莖は年に四米も生長して、地下莖の節毎に數個の芽が出来る。この芽が成長して

春先五月頃になるに地上に顔を出して来る。これが筍である。筍が生長して竹となり竹藪となるので、俗に盲醫者を籤云つたり、筍云つたりして悪口を云ふ。筍が生育するに莖の中心部の髓が破壊されて消滅して、竹の空洞となる。「雨後の筍」云はれる様に筍は春先の暖かさが増すに、雨後に急激に目に見えて成長を始める。マダケは日に九〇糎も延びた例がある。

幼児に筍の成長を測定させたり、筍の成長ごつこをさせるに面白い。筍に竝んで棒を立て日々の成長の度をしるし、後に物差で測定するか、棒に直ちに目盛をして置いても良い。

筍の成長は、降雨量や湿度に左右されることが多いので、多く雨後に急速度の成長が見られる。

【新刊】

内山憲尙著

紙芝居精義

著者が紙芝居道(實演に於ても、理論に於ても)の權威であることは既に著名なことである。本書はその著者の蘊蓄を傾けられたもので、紙芝居の理論から歴史、作例まで述べられてあり、幼稚園實際家の座右に是非一冊は備へて置くべきものと思ふ。

(東京市神田區神保町一丁目六七、東洋圖書株式會社發行、定價金貳圓四拾錢)

冬期・幼稚園に於ける疾病豫防

廣瀬興

幼稚園に於て缺席の多い時期は麻疹百日咳の流行期であるが、一般的には一年中先づ冬期と云つてよいであらう。感冒、氣管支カタルの如き呼吸器病のためが多い。故に幼稚園に於ては冬期には主として呼吸器病に對する豫防鍛鍊が肝要である。一般小兒病は勿論傳染病の如く細菌の感染によつて起る疾病すら其の細菌が體內に侵入しても必ずしも發病するものではない。其の傳染病菌の多少、強弱或は侵された身體の抵抗力の如何により發病するものもあり、或は何等の症狀を自覺せず經過する場合もあり得るのである。殊に感冒、氣管支カタルの如きは勿論、結核の如きすら然りである。我國は結核發病患者大略十數萬と云はれるが結核感染者は我國大人の殆んど九〇%以上であるといふ割合から云へば他の疾病に比して案外結核が感染しても發病せぬものだといふことが判る。従つて常に身體の抵抗力を高めて置くことが最も大切であり、この事が豫防であり治療でもある。

疾病に對する抵抗力を強めるには、疾病によつては特殊

の豫防ワクチン等によつて得られるものもある。例へば天然痘、デフテリア、百日咳、麻疹、腸チフス、赤痢、猩紅熱等である。其の中天然痘は完全に、デフテリアは殆んど完全に豫防が出来る。百日咳、麻疹も近年は數ヶ月間完全に豫防は可能である。斯る特殊の抵抗力發成處置も猶、之に加へて一般身體抵抗力増進法が必要である。況んや他の疾病に於ては一層、一般の身體抵抗力の増進や鍛鍊が重要である。然らば、身體抵抗力の増進殊に冬期幼稚園に於ては如何なる注意が必要であるか。

第一に合理的の榮養攝取、第二に環境の良衛生狀態、第三には以上二要件の一つ一つに付いて幼兒自身が積極的に實行する良き習慣を有することである。即ち所謂健康保育である。

小兒の榮養問題は特に重要で小學生の虛弱兒の大部分が乳兒期の人工榮養と離乳期の榮養と幼兒期の偏食、間食の問題に密接の關係を有してゐることによつても頷かれるのである。

我國に於て常用される食品材料は約四百種と云はれてゐるが、其の各々一種によつては如何に多量に攝つても質的に不完全であつて遂ひには其の抵抗力を弱め疾病を招來するに至る。母乳の如きすら生後六ヶ月迄は完全營養物であるが其れ以後は血液に必要な鐵分其他が不足して、貧血、筋肉薄弱、神經質等を來す。離乳期の遅延のため此の時期我國に於て死亡率の極めて多い事は周知の事實であり、我國大人の日常獻立中乳兒に直接與へ得るものが少いこと、母親の離乳營養知識の缺乏の原因である。

約四百種位の食品中、各々特徴を有し、(イ)獸肉、魚肉、豆類の如き蛋白質、(ロ)野菜海藻、動物の骨格中に主として存在する礦物質は身體の組織構成や血液體液の組成に役立ち、(ハ)米麥等の穀類、馬鈴薯其他の澱粉類、砂糖類の如き含水炭素、(ニ)動植物の脂肪類の二つは主として體溫發生、エネルギーの供給に必要で殊に冬期寒冷の際は脂肪多き食品を攝らしめること、脂肪類を嫌ふ幼兒には勉めて何等かの方法で之を攝取する様こ掛けることが疾病豫防上肝要である。俗間空腹時に風を引くこと云ふのは事實である。油濃いのを食するに體が温まること云ふのは脂肪が温發生の役目があり餘分は體內に貯藏せられるからで其代り脂肪や含水炭素は直接、筋肉や骨格を肥らせないであらう。其他、ビタミンの各種の不足は必ず抵抗力を弱める。

自覺的に症狀を現はさずとも、不安定の状態にあつて若しそこに病源體が侵入した場合に直ちに發病し急速重症となる傾向を有すものである。殊に冬期は日光不足が一般であるから平素日光によつて補給されてゐるビタミンD(骨格形成、感冒豫防の效)やビタミンAを營養によつて充分供給することが大切である。動物食品の内臓、大根葉、人蔘の如き青赤等色彩の濃き野菜、殊に鱒、卵黃等である。冬期、虛弱兒に肝油を與へてビタミンA、Dを補ふのも一方法であるがこれのみにたよるは賢明ではない。

幼稚園に於ては平素偏食の傾向のある幼兒、殊に脂肪攝取を嫌ふ種類の者は注意して家庭と連絡をこり共同給食なり、辨當の獻立適正なりによつて、極力、合理的營養攝取に努力するなれば必ず案外の感冒豫防效果を経験せられるであらう。ビタミンA補給の方法の場合、單にAのみならず、D・Bも共に與へる様、肝油中にBを添加した營養品例へば「バ、」の如き菓子類が多種販賣されてゐるからそれ等を利用するか又は肝油と同時にオリザニン、エビオスの如きB劑を與へるに效果が大である。

環境の衛生上の要點は、日光、空氣、溫度、濕度、氣動の五條件であらう。

日光の不足は冬期に於て最も重要で感冒を恐れて戶外に遊せしめなければ却つて罹病せしめる。日光は細菌の滅殺

のみならず身體、細胞組織の活動力を盛んならしめ従つて抵抗力を強める。殊に都會に於ては日光に親しめさせることが必要である。太陽のエネルギーは、一八〇〇米の高山では七五%、海上では五〇%到達するのに、都市に於ては僅かに、二五%しか利用出來ぬ云はれてゐる。幼稚園に於ては北西東の窓を閉じ、南側のみより日光を射入する様工夫して幼児を成るべく薄着せしめ膚を露出する様にして日光直射中に遊ばしめる。又、殊にセロファン紙の窓を作成して遊戯室中に日光を充分に採入するも可である。北陸東北地方の幼稚園に於ては効果が顯著であらう。

空氣の衛生的良否を考へる時、必ず物理的方面と化學的方面とを考慮せねばならぬ。即ち主として塵埃の多少と其の性質、有毒ガスの有無である。閉塞し勝ちの遊戯室に塵埃多い時は必ず扁桃腺の肥大や腫脹が増加する傾向がある。茶殻や濕した新聞紙を散布して室内を時々掃除するのは有効であり、單なる掃帚除は却つて危険である。疾風時、圍庭に散水することは冬期にも必要のことがある。

有毒ガスに就て問題になるのは暖房による一酸化炭素の中毒で、多量の場合には前頭痛、後頭痛、嘔心、動悸、冷汗、眩暈、失心の順序に來る急性中毒症狀によつて判るが少量の場合は長期の輕頭痛、便秘、貧血、不眠、食慾不進、注意力散漫の如き極めて特徴のない症狀にて徐々に身體に重

要の影響を及すに至る。元來、一酸化炭素は無味無臭無色無刺激性であるから其の存在を認知するには前記の急性症狀によるより他に方法がないのは誠に遺憾である。木炭、煉炭、石炭、ガス其他煙突を裝置せざる場合必ず發生するもので、表面が全部眞紅に燃えた炭火でも最後まで多量の一酸化炭素が發生してゐるのである。煙突も繙ぎ目を嚴重に閉塞してガスの漏れざる様にするこれが肝要である。室内の空氣を時々換氣し新鮮ならしめ急性中毒は勿論、慢性中毒を防いで幼児の抵抗力増進を阻害せしめない様に注意すべきである。このガスの中毒は一般に年少程甚しいが同年齡でも個人的差異が極めて大で、少量でも甚大な影響を及すものもある。

溫度、濕度、氣動といふ氣象的條件に就いては寒い暑い或は乾燥してゐる濕けるといふ様に、一條件のみでなく必ず三者の配合を同時に考慮せねばならない。高温高濕無風と嚴寒乾燥疾風が最悪である。冬期に於ては冷寒と乾燥と通風が同時に侵ひ來ることを防がねばならない。小兒の健康のために郊外に轉住して却つて毎年病氣し勝ちになつた云ふ例は冬期に於て餘りに風の強すぎたのが一因である。

榮養の項で述べた如く、含水炭素脂肪の攝取によつて産熱し常に平均三七度の體温を保持して行かねばならないのが人間の特性である。これを恒溫性云つてゐるが（この

他、恒酸性、恒壓性を有する)、若し餘分の熱が體内に鬱積すれば身體に悪影響を及すので、其の熱を何等かの方法で體外に放散せねばならない。この放熱作用の八〇%は皮膚表面の蒸發、傳導、輻射によるのである(他の二〇%は呼吸と大小便の如き排泄作用による)。即ち、産熱作用と放熱作用とが常に調和して居ることが最も健康である。而して、放熱作用の大部分は皮膚表面より行はれるのであつて、殊に小兒の皮膚表面積は年少程、大人のそれに比して割合が大であるから一層、皮膚作用と云ふものが小兒にまつて重要さが判然するのである。皮膚の養護、清潔、鍛鍊が大切な所謂である。梅雨期の高温高濕は鬱熱し易く消化器病を發し易き故に通風をよくし濕氣を除き、冬期、乾燥疾風を防いで脱温を調節し、呼吸器病を豫防することとなる。保育室、遊戯室に適當の水蒸氣を發生せしめ乾燥を防ぐことが必要である。俗間、防乾と云ふことを考へ異いして肺炎患兒の病室を全部目張りし、火鉢に洗面器を置き多量の水蒸氣を發散せしめ、高温高濕無風といふ最悪の氣象條件を人工する例を屢々發見するが、之れは前述の理論を知識せざるためである。正確に云へば病室の如き殆んど無風帶の處に於ては、濕球計華氏五六度前後が最適である(濕球計は普通濕度計の中、水銀球を濕つた布で蔽ふた方である)。其故近來肺炎患兒に病室の開放療法さへ行つてゐる程である。

前述の如く、幼兒の疾病豫防には榮養と環境衛生といふ二條件が根本要約であるが、是等の事項も幼兒自身が平素それに適應した生活をせざれば何等効果が現はれない場合もある。例へば如何に完全なる榮養食を與へても幼兒がよく咀嚼する習慣がなければその効果は減殺せられて了ふであらう。日光が如何に豊富であつても幼兒が戶外に遊ばず、厚着の習慣があれば之れ又その結果は何割引きである。健康生活の良習慣、衛生上の正しき躰けが殊に冬期の幼兒疾病豫防の一要件であつて家庭に於て不可能なることも幼稚園に於て初めて可能ならしめる事項が多々あり、こゝに健康保育の重要さがあり、又、幼稚園の使命も現はれて來る所謂である。

健康保育、狹義に云へば健康上の良習慣を養ひ、衛生上の正しい躰けをする場合に常に念頭を去らしめざることは、集團的に總ての幼兒に同一方法、同一行動をせしめては不可なることありさいふことである。少くも或る幼兒には消極的に、或る幼兒には積極的に二種類ありと考ふべきである。消極的の幼兒に積極的保育をなせば健康を害するは勿論、積極的幼兒に消極的保育を行ひ續ければ健康増進は望めない。之れは保健上のみならず教養上よりも同様であらうが然らばこの兩者を如何にして區別するか。云ふは易く行ふは困難なる問題にして、こゝに於て、園兒全體の

専門家の検診が必要となつて来る。併し恐らく専門家もこの兩者の判定は不可能の場合もあり、又保育の内容も複雑なる故、結局、一應、専門家の検診によつて其の體質を判定し、園児を大體、強、中、弱の三種に分ち、保育の場合、保姆は常識的に用心を加へつゝ次回の検診の結果によつて判断するより他に道はない。併しこの常識的さいふところが、一見、極めて非科學的の様であるが決して然らず若し保姆が極めて細心の注意を以て觀察するなれば却つて、効果的である。検診醫が體格營養判定に理論的判定式の應用に依つて定める場合より、視診による方、正確の場合が屢々であることと同様である。

園児の検診は大體、身長、胸圍、體重、上膊圍、眼、耳、鼻其他一般内臟検査であるが殊に結核の素質、先天微毒の有無の検査が大切である。蛔蟲検査も地方に於ては必要で筆者の経験では生後六ヶ月の未だ母乳が主食である乳兒の便中に蛔蟲卵を検出した例が罕ではない。

結核検査はマントウ氏反應によるので近來は小學其他一般の家庭に於ても厚生省體力管理制の下に實施に移されてゐるのであるから、一般幼稚園に於ても實行不可能ではあるまい。更に陽性のものに赤血球沈降速度の測定が必要である。

微毒検査(實行)はやゝ困難であるが精神薄弱智能低下の

幼兒には特に家庭に推めて検査し置くべきである。案外、一般家庭の微毒は多いもので東京に於て下町の産院で、一〇%、山の手の母親に七%、大阪の或る産院で一五%の母親の自覺せざる微毒があつた。この割合より推定すれば全國相當数の潜伏微毒がある理である。筆者が小學生千人の検査によつて一・八%の潜伏微毒兒を検出したことがある。微毒検査も以前のワッセルマン氏反應の如く多量の血液や相當の費用を要せずとも、井出氏反應によるミ耳朶よりの數滴の血液ミ一名數錢の費用によつて檢出出来るであらう。

以上の如き検診ミ家族歴ミの事は最も大切であることによつて其の幼兒の體質を大體判定するのである。勿論必ずしも組方の必要なき場合もあり或は特別の保育の必要のこともある。

猶、一般的に實施し置くべきはデフテリア、百日咳豫防注射を家庭にすゝめること、デフテリアは約三ヶ年間は有效であるが百日咳も近頃の豫防ワクチンは方法によつては一ヶ年位有效であらうし又罹患しても輕症に經過するので一應行ふべきである。幼稚園に於ける百日咳の流行は最も悲惨である。百日咳は初期が最も傳染し易く未だ特有の咳嗽發作用の起さないカタル期が最大である。特有發作より三乃至四週間は危険であるがそれ以後は咳嗽發作が續いて

も菌は消失してゐる。潜伏期は大體十日以内一週間前後に
されてゐる。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)も幼稚園の問題の疾病で
あり経過後も幼児の抵抗力を弱め結核等の感染發病の原因
となる。潜伏期が二乃至三週の長いこと、傳染力の強きこ
と殊に初期咽喉カタルや扁桃腺腫脹の時期に傳染力強き故
に早期に發見して登園を禁止せねばならない。

以上の如き一般の注意の下に個性に注意しつゝ、咀嚼、
偏食矯正、齒ミガキ、手洗洗面、爪切り、日光浴、戶外運
動、薄着、乾布摩擦等其他家庭の生活狀態に應じ殊に保育
所に於ては一層、母親を指導すべき健康保育の部門が多々
あることと思ふ。

要するに疾病の豫防の要決は單に一方法のみによつては
其の目的を達し得ず前述の如く總ての諸條件に就いて注意
を怠らざる事が一見、平凡なるが如くして最も重要である。

【新刊】

城戸幡太郎氏著

幼兒教育論

本書は序文の中で著者が言つて居られるやうに、ラサオで放送
されたものや雜誌(保育問題研究、教育)へ執筆せられたものを主

として集められたものであるが、それはまた著者の幼兒教育論で
もある。一度び目次を開けば、どの項でも、讀み度い、讀まねばな
らないと思ふ題目ばかりである。本書は保育の仕事に携はつて居
るものゝ心を、どんなにか高め、深め、廣くすることであらう。
御一讀を切にお奨めする次第である。

(東京市神田區一ツ橋二丁目賢文館發行、定價金壹圓八拾錢)

津川圭一氏譯

フレーベル愛兒保育歌曲集

フレーベルのムッター・ウインド・コーゼリィダの翻譯には、前に
頌榮幼稚園版あり、後に岩波版がある。それ／＼貴重の勞作であ
る。たゞ、前者は創意多き自由譯であり、後者は偏に原語への忠
實譯である。その中間に、尙ほ別の試みの行はるべき多分の餘地
がありそうだと、多くの人に感ぜられてゐたことである。津川
圭一氏の譯詞は、確にその一つであり、曲譜にあはせて、調に歌
ひ易い柔か味がある。こういう仕事に滿人の一致を期することは
難いが、あの難解なフレーベルの古獨逸語を、こうまで平易化さ
れた苦心は、まことに敬意を表せざるを得ない。その上、曲譜集
になつてゐるのは、岩波版と異なる點で、歌曲集としての此書の元
來を傳ふるものである。茲に新たに我國のフレーベル文獻を加へ
て下さつたことに對して、津川圭一氏に感謝したい。

(東京市麻布區市兵衛町二丁目、教會音樂社發行、定價金參圓)

殘花聚園 (十二)

(日本幼兒教育史資料)

東京女子高等師範學校教授

石川謙

一八

八、大原幽學の幼兒教育觀(二)

六歳になつて、子供の知覺が確なものになり、學習する力が筋立つて來るを考へるのは、必ずしも幽學だけの新しい主張ではない。支那に於ても、我國に於ても遠い昔からさう考へる慣はしがあつた。つまり、子供の精神に於ける内部的活動が、生き／＼と力強いものにもり、上つて來るさいふ見方である。此處に紹介する幽學の兒童觀が、彼れの經驗と觀察とから來た獨自のものであつたか、社會的な傳統的な信念に根ざしてゐるかは別問題であるが、その述べてゐる所は次の様である。

「六歳近く成るに順ふて其勢益々盛んなれば心の移り替る事も亦是に隨ふ」。

「細註」故に智を増さしむるに基だ六々數大事なるときなり、また此の五六歳の中に捨塊れものにして、才智を打屈るもの基だ

多し見て知る可し。

「註」又云ふ人十五歳迄は常に見覺え聞覺えたる事其時其儘直に思ふ事の種を成りて以て其言ひ出る事も亦思惑も日々に才ばしる者なり、道を知らざる人は其子供の才奔るを智惠附たりと心得違てほう笑む者なり。童兒も亦人の我にほうゑむを見て嬉し氣に其圖に乗る者なり、中には五歳六歳の頃は物に才ばしる事騎馬の如し故に才耳舒びて智を増すこなし是を以て唯所謂出來過る事の種ばかり生るなり。是を才に尅る云なり亦是について愚俗は六歳迄の中に水氣の萬物を潤す如くなる尊き其智を失はしめ利口がましく育る者萬にして九千九百九十九人なるべし。

「細註」夫れ如斯所謂馬鹿の如く育つるに於ては才氣靜かなれば其才に尅る事も無かる可し然るに於ては智漸々増むとも微る事無かる可し、又才ばしる事無き童子杯は他人と雖も是を愛

す其愛にあづかるに於ては捨塊る事も無き故に能く人の教を用ゆるなり是れ則ち智なり、然るに於ては人に打屈めらるゝ事無ければ才も直ちに舒びて愈々智を増し馬鹿と成る可きいはれ無し其幽玄を能く味ふ可し、松に譬て是を言へば智を肉にして増者なり故に目に立ぬなり才は丈に舒る者なり故に目立つなり。又云ふ松も丈に舒る事盛んなれば必ず肉増さず瘦て枝葉とも茂らぬ者なり是等の木二三十年を育て風杯の爲に吹き折られ杯して效能薄し、せせこましく植込す唯々間原に植て健に仕立たる松は肉太にして立體具足する故其舒るとも目には立らずと雖も其枝葉も茂り幾丈舒るとも危からず千歳ふるとも年ふる程年々歳々に世の用と成るなり。

人も則ち其の如し幼稚の時才舒る事盛んにして智の微れざる者稀なる可し、亦智微れて才耳丈たる者は必ず災ひを引出す事世俗を見て知る可し故に必ず先づ智を増せしむる事耳能くして以て才是に隨ふて育る時は則ち五常自らに具足するなる可し其年長するに順ふて年々歳々に譽有るとも災ひは無かる可し此幽玄を知らずして子を育るは危し。

六歳にして女子は稍々人心地付く故に此頃に至ては小口しく世話する事杯を好む氣味有り其人心地付くに順ひ人を妬み猜むの志出来て來る頃なり。

男子は陽氣多く寛なる徳の備り有る者なり故に六歳にして未だ人心地盛んならず唯見聞く事に才ばしる耳の頃なまむなり。

要するに、六歳頃の子供の心の内部活動は、自然な放棄なものであるから、それを其のままに總て取入れて、正しいもの、賢いものごまつり上げてはならない。中にも五歳六歳の頃は物に才ばしる事騎馬の如し「見るのが幽學の見方である。それ故に、導びいて正しい方向に向け、抑へて誤まれる方向を矯め改めなければ、後年長く過ちを生ずる源となる。此の點から見て、嚴密な意味での教育は、此頃からこそ形を整へて施さるべきである」と考へた幽學である。それだけではない。この頃になると、女子は漸く女子らしい物の考へ方の芽が出て來るものであるから、男子とは違つた意味での躰をしなければならぬとも考へた幽學であつた。

二

七歳になると、男の子は、もの見しりの情があらはれて、内氣になり遠慮勝ちになる一面と、調子に乗つて何處までも才ばしつて働く他の一面とが、調和する事なしに矛盾のまゝ現はれて來るものである。女の子は、此の頃から妬む心・猜む心が段々強くなつて來る。従つて、他人の心を無暗に當推量したり、心の底で意地悪い執着を持つたりして、素直さを忘れてゆく傾向が生ずる。

「男七歳と成りてはこゝにふれては遠慮する氣味有りまたこゝにふれては才ばしるこゝ有るこの兩端あり」。

「細註」是れ亦八歳迄の中に人と成りて後の我慢の種と成ること多し。

「女は七歳八歳ニ漸々ニ妬猜の強ク來る頃なり或は及も無き人の心を己れが心の底にて推察し或は年丈たる男子に對るこも懼れたる振りにて心の底に捻塊有る頃なり」。

「細註」此を誡めずして實る男子を恐るゝ事に育てざれば其年丈て必ず氣隨の種と成るなり。

八歳になるこ、男の子供は落着いて、じつじつ、物を考へる習慣が出来るこ同時に、後ずさりする、物怖ぢする心もまた生れて來る。女の子は、九歳頃から、物を考へるやうな、人の心を探つたり氣をひいてみたりするやうな氣持も發達して來る。十歳になるこ、言葉遣ひも、身のこなしも、女らしい優しさが生れて來るから、稽古事等はこの時分に始めるのが一番有效である。

「男八歳ニ成りては則ち人心地付き少しく人の心を問ふ氣味有り亦年丈たる男子に對する時は少し臆するの氣味あり」。

「細註」此年丈たる男子に對面爲さしむる時は必ず情愛薄き人に對面爲さしむ可からず其幽玄を能く味ひ知る可し。

「女九歳ニ成りては人に對して何歎物思ひの面持有る事多し其人の心をさぐるの氣味有故なり故に其れ相應に

邪痴を専らとする頃なり。

「細註」尤も女子は氣重く物思ひの面も持有時は其心のそこに邪痴有事多しと知る可し。

「人を能く育ひ試したる者ならでは是等のここは或は惑ひ或は迷ふて其の幽玄は必らず知り難かるべし。

女十歳ニ成りてより漸くに面柔らがき言葉やさしく成る頃なり又た稽古事なきは能く手に入り初る頃なり」。

「細註」尤も女子は嫉妬偏執のみ多くして智無き者なれば此頃迄に善惡邪正を辨する杯は其年長せるに順ふて人の善き噂する杯の種と成るなり別して民家の幼女の咄し上手杯は年取て後の人の噂する種なり。試し見る可し。

「男九歳より十歳の中は唯だ茫然として、心に執り止め無く、唯だ存するが如く、亡ふが如くの頃なり」。

「細註」尤も男子は所謂健かなる者なれば此頃は其心唯其儘なり。

三

男子は、十一歳の頃から、物學びをしようとする傾向が著しくなるから、この頃から十四歳迄の間が、學問にしても、業務にしても、學ばせる一番適當な時期である。此の間に一通りの學習をさせなければならぬ。十五歳なるこ、最早一人前の男としての能力が、すん／＼と現れて來るから、もはや物學びの時期ではない。學んだものを習熟練習

する時期である。女は十三歳の頃になるに、既に女としての一通りの自覺が出来、氣持が伸びて来るので、女らしい恥かしさ、氣弱さが見えてくる。随つて女としての矜一通りは、此の時期に於て早く完成しなければならぬ。

「男十一歳より物學びの志に力を得るの頃にして二十三、十四歳迄漸々學びの力を得る頃なり」。

「細註 男子は所謂寛なる者なれば物に凝る事鮮し故に育てて方の惡き子は必ず學ぶ事の緩き者なり、然れども教へ方善ければ其れ相應に知るなり是れ亦陽物の徳なり、唯々偏執の種と成る事と臆病に育る事勿れ」。

「女子十三歳成りては一婦人たるの能力を備へ唯人の形振り杯に目を配り或は俗に云ふ恥かしき面ばせ多し又其風姿に偏執する故悉く氣弱く成る者なり」。

「註 女子一婦人たるの、機能を備へるに至りては、則ち人成りたるものなるゆゑに、十三歳までに見聞きたることは、皆おもふことの種と成るなり、則ち其の常に見聞きしことの風に心の居るを知るべし」。

「男子十五歳成りて人の父たるの能力を具備し此時に至りて氣強く成る者なり」。

「註」是れ亦此十五歳迄の其常に見聞きし事則ち思ふ事の種と成りて其思ふ事の器量相應に其行の善惡邪正を顯はずなり。

又云ふ男子は十五歳女子は十三歳迄の中に人の感る程の頓才有る者杯に道たる所以をも知らしめずして唯其儘に育るにおいては其中年に至りては或は公事訴訟或は分不相應の事を巧み杯して終に不孝不義、非義非道を行ふ者世に多きを見て知るべし危し々々。

「細註」若し幼稚にして頓才なる子を持ちたる者は斯くの如く惡行に陥る事有るを恐れて必ず其頓才を悦ぶ事勿れ必ず愚鈍に似たる事有るを見出し是を悦ぶべし然る時は其幼稚の心自ら能く鎮り智を増すべし、其幽玄は筆端に及び難し故に是を能く味ふて其行ひを勉め試る可し。

又愚鈍なりと見ゆる程の者は利口にだに育てざれば危き事少かる可し、別て頓才有る童子には道杯を必ず口先にて教ふ事勿れ必ず常に道たる行ひを勤め見せる事こそ大事なる可し。

十四歳以下を少年とし、十四歳以上を成人とする見方も、又、恐らく幽學の經驗と觀察とから生れた獨自の考へではなかつたであらう。「禮記」の記された遠い昔からの支那の社會の慣はしも、影響した事であらう。又、十五歳元服といふ我國古來の社會的習慣も、強い背景となつた事であらう。然しそれにしても、さうした考へ方を裏付けるための具體的な心の運びの發達や、特殊な行動の發達を、細かに觀察して書き上げた、幽學の骨折は一應みこめなければならぬ。(昭和十四年十一月十四日)

餅の的

(風土記から)

東京女子高等師範學校教諭兼教授 石井庄司

三三

しつかり見せておきたい。

豊葦原の瑞穂の國に稱せられる、我が國にはお米を大事にする話が古くから傳はつてゐる。それは「餅の的」の話である。豊後國風土記、田野の條に左のやうな記事が見える。

「この野は廣く大きに、土地沃腴^{つちこ}えたり。開墾^{あらか}の便^{たより}、この土に比ふものなし、昔者^{むかし}、郡内^{ぐんうち}の百姓^{おほみたち}、この野に居りて多く水田を開き、糧^{かて}を餘^{あま}して畝^{こま}に宿^{とど}め、已^{はな}だ富^{たか}みて大く奢^{おご}り、餅^{もち}を作りて的^{まき}爲^なしき。時に餅、白鳥^{しらとり}化^なりて發ちて南に飛びき。當年^{そのとし}の間に、百姓^{ひやくしやう}死^{しか}に絶^たえて、水田を造らず、遂^{つひ}に荒^あれ廢^やてたりき。時^{とき}より以降^{のち}、水田に宜^{あた}からず、今、田野^{たの}さいへるはその緣^{ゆかり}なり」。

著者が不明で、文永・弘安の頃の作と言はれてゐる考證的雜筆「塵袋」には、此の話は次のやうに傳へられてゐる。

「年始ニハ人ゴト餅ヲ賞翫スルハ何ニノ心アルカ。餅ハ福ノモノナレバ祝ニ用フル歟。昔、豊後國琉球郡ニヒロキ野ノアル所ニ、大分郡ニスム人、ソノ野ニキタリテ、家ツクリ田ツクリテスミケリ。アリツキテ家トミ、タノ

秋の收穫が終るに、農民はまづ今年のお米で餅を搗き、神に供へ、そして自分等も舌鼓を打つて、一年間の勞苦を忘れるのである。神棚に供へられた白々とした餅の姿は、さんなに彼等の目に快く映るこゝであらう。餅は全く神聖なものである。粒々みな辛苦から成るお米を、農民は如何に大切にするか。これは都會生活者、米の消費者にはちよつと理解できない位である。「眼がつぶれる」「罰が當る」「勿體ない」といつて、一粒の米をも無駄にしないといふ本能的な有様は、全く涙ぐましいものである。この心持は、誰にも味はつてもらひたいと思ふ。

山本有三氏が子供の友に書かれたものの中に「みなさんは米粒を見たこゝがありますか。毎日、毎日、けふのご飯はかたいの、やはらかいの、うまいの、まづいのこ、勝手なこゝをいつて食べてゐますが、一粒の米をほんたうに見たこゝはないでせう。一度手の平にのせてよく見てごらんなきい」といふ言葉がある。子供にもお米といふものを、

シカリケリ。酒ノミアソビケルニ、トリアヘズ司ナイケルニ、マトノナカリケルニヤ、餅ナク、リテ的ニシテイケルホドニ、ソノ餅白キ鳥トナリテ、トビサリニケリ。ソレヨリ後、次第ニオトロヘテ、マドヒウセニケリ。アトハムナシキ野ニナリタリケルヲ、天平年中ニ速見郡ニスキケル訓邇ト云ケル人、サシモヨクニギハヒタリシ所ノアセニケルヲ、アタラシトヤ思ヒケン、又コ、ニワタリテ、田ヲツクリタリケルホドニ、ソノ苗ミナカレウセケレバ、オドロキオソレテ、又モツクラズ、ステニケリト云ヘル事アリ。餅ハ福ノ源ナレバ、福神サリニケル故ニ、オトロヘケルニコソ。……」

(日本古典全集本、第九、六一二頁—六一四頁)

風土記の原文ミは聊か違つたところもあるが、まづ風土記に據つて敷衍したものと云はれる。要するに全く同一の傳説である。

右に對して、神名帳頭註、或は諸社根元記等に引用されてゐる山城風土記の逸文に、稻荷神社の縁起として、次の如き傳説がある。

「山城風土記に曰く、伊奈利の社、いなりと稱へるは、はなのなかついへのいなり、秦中家忌寸等が遠祖伊侶具の秦公稻梁を積みて富裕を有らき。すなはち、餅を的と爲ししかば、白鳥ミ化成りて、飛び翔りて山の峰に居り、稻なり生ひき。遂に社

の名を爲しき。その苗裔に至り、先の過を悔いて、社の木を抜にして家に殖ゑて禱み祭りき。今その木を殖ゑて蘇きば福を得、その木を殖ゑて枯れば福あらず。」
いづれも富み榮えてゐた者が、餅を的にして射た爲めに、白鳥ミなつて飛び去り、後に不幸を招くといふ筋のやうである、これは餅を神聖なものとし、米を大切に取扱ふといふ精神のあらはれのやうである。これを子供にわからせるにはさうすればよいか。まづ大體の話の筋を立てて見よう。

二

むかしむかし、一人の若者がありました。自分で耕して、自分で作つて、暮を立てたいと思つて、方々がして歩きました。

山を越え、野原を越えて、すつと向ふに行きます。廣々としたよい土地が見つかりました。そこで若者はせつせと野原を耕して、田圃をこしらへ、そこで稻を作ることにしました。

苗代さいふ田圃へ、稻の種をポロポロさまします。稻は水が好きですから、晝間は乾して、夜には水を溜めておきます。するさ青々としたかはい、稻の苗が出来ます。それをもつと廣い田圃へ植ゑかへます、これを田植といひます。

夏の暑い日がカンカン照りつけるやうな日でも、若者は田圃に出て、稻の世話をしてやります。稻はぐんぐん大

きくなつて、葉を出し、花が咲いて、涼しい風が吹く秋の頃になります。稲は實がなつて、すっかり金色になります。それを刈りこつて、藁からもぎこり、糶こします。それをよく日に乾して、それから臼にかけてゴロゴロゴロ引きます。きれいなお米になります。

皆さんは、お米をみたこがありますか。小さい小さいお米ですが、長い間苦勞を重ねなければ、手に入れることの出来ない大事なものです。

さて此の若者は、廣い田圃を耕して、お米を澤山取入れることが出来ました。それをきいて、あちらからもこちらからも、人が集つてきて、みんな心を合はせて、一生懸命に働きました。若者は初めて、此の村を開いたので、村長さんになりました。そして、お家はさん／＼お金持になりました。

その中に、此の若者の村長さんは、年をこつて来るころ、段々働かなくなりました。そして毎日お酒を飲んで遊んでばかりになりました。

この村長さんは、大變弓を射るこことが上手で、誰にでも負けないといつて自慢をしてゐました。

或日のこ、大勢の人々がお酒盛をしてゐましたが、弓を射るここになりました。

「自分は上手だから、何でも射て見せる」こ大威張に威張

つてゐました。そして神様にお供へしてあつたお餅をこつてきて、的にするこにしました、白いお餅です。それを的にして、村長さんはひやう／＼自慢の矢を放しました。ぶすり／＼、矢はうまく餅の真中にささりました。

するこ、そのこたんに餅は忽ち白い鳥にかはつて、バタバタ羽ばたきをして、空高く舞ひ上り、すつ／＼南の方へ飛んで行きました。村の人々は、その様子を見て、びつくりして、物もいふこが出来ませんでした。

それからいふものは、此の村の田や畑に蒔いた種は一つも芽が出て来ません。稲を作つてもお米がこれません、お甘藷を作つても何も出来ません。そこでお金持だつた村長さんのお家もだん／＼貧乏こになりました。村中の人々がみなお米がたべられなくなつて困つてしまひました。

附記 話は簡單であるが、稲作といふことの困難さをいくらかでも理解させるため、初めにさういふ説明的敘述を加へることとした。話の筋は、主として豊後國風土記のものに據ることとした。甚だ富み、奢りになつたといふことで、奇蹟が湧き起るといふやうにしてみた。しかもあまり原因結果にすると、悪くなるから考慮を要する。なほ原文では、百姓が死に絶えるどあるが、これでは餘り殘酷に過ぎるので、稲が出来なかつたといふのに止めた。それで米がたべられなくて困つてゐるといふだけで、それから先は穿鑿しない方がよからうと思ふ。

北國の冬の幼稚園

青森幼稚園

今

五

よ

是れと同じやうな題目の下に大正四年丁度二十一年前當時の「婦人ミ子さま」に執筆したことがありますが、御折角の御申越故重ねて申上ぐることに致します。

年々に来る冬であります、幾日もく／＼ブウ／＼吹雪の續く事を考ふれば、生れた土地でさへ不足を言ふ事がありますが、併し何にしても郷土は大切であり又なつかしいものであります。而して大自然に従ひあらゆる工夫をこらしてこそ住めば都々申す諺に當てはまるのでありませう。併し近年の詞に自然を征服する等々言つたりしますが、自然を征服してさうなる事でせう。それこそ大變なことになる言語同断なことであります。自然を利用し自然に則つて生活せねばならぬのであります。

さてそれについて私の幼稚園でして居る事の二、三につき申述ぶることに致します。

一、 幼児迎送車

この事は仙臺の大曾で略々申し上げました。我が幼稚園の幼児迎送車は大正二年（今から二十六年前）から始めたの

でありましたが、雪國の幼稚園は冬季に於て殊更必要でありますのに、通園困難の爲園児の多數は約五ヶ月間も休園するので、よき方法もなきかゝ種々研究の結果考案したもので、男人一人で十人以上十五六名を乗せる手俵であります。初めは大八荷物で試みましたが次第に改良して今は稍々立派なものになりました。昨年からはリヤカーを利用した小型のもの即ち七八人を乗すべきものをも造りましたが、冬は箱丈けを櫓に移すのであります。

初めの計劃は冬季のみを豫想しましたが、家庭からは極めて重寶がられ、遂に年中繼續する事となり、今日に及びました。即ち往復附添人を要する幼児は甚だ手が省け、又弱き子、遠方からも通園が出来誠に便宜だに歡ばれ其當時は當園の專賣特許だにやされました。今は地方の名物となり又此の施設は世界にもないこの事でありませう。曳手は他の内職を兼ねる者を雇ひ、一人の幼児の家庭から一ヶ月金壹圓の車賃を申受けて賃金に致して居ります。

右の施設は通園歩行困難の幼児の爲を目的としたのであ

りましたが、更にもう一つ大なる目的にも叶ふことゝ思ひます。即ち都市に於て理想の幼稚園敷地を得られぬ場合郊外をトしてしつらへ而して右の方法によつて幼児を迎送するのもよき方法と考へます。

幼稚園は幼児の生活を營む場所であり、人生一生の人格の養素を造る所であります。出來得るだけ豊富な設備と方法とを要すべきであります。然かも聖戦下の幼稚園は其將來を想ひ尤も考慮を要すべきと信じます。

室内生活は他の地方と大差ありません。

二、雪の生活と遊具について

十二月から三月末迄は積り積つた雪は地を埋め幼児の世界でも門外遊は雪の外何物もありません。しかも屋上の雪は時々下ろさねばならず、其の爲めに軒下は高く積りて屋上も地上と同じくなり、所によりては屋上よりも高い所もあります。物凄くさも壯觀さも言へませう。さて子供はこ見れば暖國から轉住して、親御は其寒さに心配して居つたのが寒國に來て却つて丈夫になります。チラ／＼降り初めますと何の子も／＼病弱でない限り喜んで外に出て服裝の濡るゝも手の凍える事も厭ひませんことは、何れ地方の子供も同じ事とせう。積り積つた雪上の遊びに、少し晴れたる日は屋上によつてダルマを造つたり滑つたり、ダイバを造つたり、ザンゴウを掘つたり、それは／＼種々雑多、數

年前ゴム長靴が出來てからは、みんな雪でも物好きさうに泳ぎ歩きまわります。但し事變下の今日ゴム靴は統制されたるにより地方で出來る藁長靴を用ゐる事とせう。子供の心理には敬服します、大人が寒いと小言を云ふ時も自然に服従して樂天です。世の母サン達の中には、此の寒いのに外に出て馬鹿だ、家にだまつて炬燵で暖まつて居ればいいのによく聞くこととありますが、子供がそんなにしてゐてはさうして強く育ちませうか。雪合戦も致しますが、幼い子供の事ですから、固いつぶてが面部に當つてはたまらなく痛さを覺えますし、満足に雪合戦は出來ませんから鐵板で紅白の人形を造りて的となし、つぶての當つた方は頭は落ちる仕掛けとしましたのを用ゐますから、まことに都合がよく、喜で出來ます。又雪遊を以て砂場の遊びに適するものとし、テーブルを置くもよく篋箱砂さらひ等の砂場道具の外、陶器を以て型をこりてお菓子等を造る等も面白く、是等の遊ははるかに砂場以上範圍の廣い又大規模の活動が出來ます。又幼児は大人の體量の割合に比し大きな道具を要求しますが、それによつて體力を増すことゝなりませんから、小形の雪べら等ではつまらない故、鐵板のサーベルを用意しておきます。以上の雪遊は暖國に得られぬ興味があります。今聖戦下に於て國寶師團や聯隊さうたわれるに至つたのも意義ある事でないでせうか。

幼稚園と尋常小學校との連絡に

關する資料調査(四)

東京市保育會

(七) 小學校より幼稚園に對する希望

小學校より幼稚園に對していろいろ希望があつたが、こ

れを便宜上 (一) 保姆に關して (二) 保育内容に關して

(三) 躰方に關して (四) 養護に關して (五) その他の五項

目に分類して出来るだけ原文のままを次にあげた。

(一) 保姆に關して

1、保姆の素質向上に心がけられたし (一三)

2、保姆は小學校低學年の授業を參觀し、教科書にも目を通されて小學校教育の内容をも承知する必要あり (一一)

3、保姆の地位を高め當局竝に社會に認識させる必要あり (一一)

4、理論と實際を深く眞劍、不動、不拔の信念の上に立つ保育をされる様研究をのぞむ (一一)

5、本市の如き都會生活をなす市民にまつて幼稚園の存

在は必要なるも、之に伴ふ大切なる保育が適切でない爲め却つて害をなす點はなきか (一一)

(二) 保育内容に關して

1、日常の保育を小學校の學科の指導にまで立入らざるやう、即ち智的指導の部面を減じ、入學後の慢心を防ぐ様努力されたし (一六)

2、子供の生活をそのまま實踐させることが子供の生活を向上させる所以である。圖畫、手工なごも、子供の思想や個性がそのまま表現される様、創作的に指導して欲しい、家庭の意欲に迎合して技巧中心にならぬやう注意されたし (九)

3、製作々業は結果よりも過程を重んぜられたし (一一)

4、見る態度、話す態度、聞く態度、作業する態度等、基礎的指導に一層注意されたし (一一)

5、文字や数の勘定等は強いて教へぬやう (一)

6、個別的取扱ひにはやり過ぎ、一齋取扱ひの邪魔になるまでの自由生活は如何 (一)

7、現在の小學校組織より見て幼稚園修了前に於ては分科的學習を加味され、よりよき學習態度を作らるやう、注意されたし (一)

8、或る程度の思考を口頭によつて、發表表現出来るやう指導されたし (一)

9、唱歌遊戲は明朗なるものを選び、その要目を小學校と聯絡して系統的にされんことを希む (一)

(3) 躰方に關して

1、子供の取扱ひがあまりに親切に過ぎ、あまやかし過ぎはせぬか、そのためか依頼心が強い (七)

2、幼稚園教育をうけた子供は一般に他の子供に比べて我まゝで、おせつかいで、氣が散り易い、特に行儀作法に注意されたし (三)

3、訓練は自由の中に統制を要求する。のび／＼とした中に或程度の鍛鍊も必要であらう (三)

4、訓練上の躰も教育者の便宜のためや、外間にさらはれて子供の活動性を傷つけてはならぬ (一)

5、めぐまれた環境に於かれたる幼稚園では豊富に學用品を給與されるためか、物品を粗末にするの感あり

物の扱ひ方、仕舞ひ方に注意されたし (二)

6、小學校の入學當時遅刻を平氣でするもの多し、この點日常保育の上に注意ありたし (一)

7、子供の訓育に當つては徒らに西洋かぶれせず、幼稚園教育の規準を祖國に求め、日本精神の上に教育されんことを希む (一)

8、幼稚園教育をうけた子供は、團體的に、社會的にながめて特殊な長所さもないふべき點がある、一段の奮起を望む (一)

9、手工や圖畫を指導するよりも訓練に重點をおき大自然に親しむ機會を多く作られたし (一)

(4) 養護に關して

1、幼児相當の體力的鍛鍊が必要にして、特に體位増進に注意され、元氣な明朗な子供にして欲しい (一)

2、出来るだけ室外に養護施設を講じ、都市兒童の惠まれないる空氣と日光とに接せらるゝ様考慮されたし (一)

3、衛生的訓練例へば歯みがき、偏食矯正等に最善をつくされたし (三)

4、慢性的疾患の治療を入學前に於て施してもらひたし (一)

5、幼稚園に於ける養護上の施設は適切効果的なものが
多い、これを習慣づけて欲しい (一一)

(5)その他

1、現在に於ける幼稚園の設備及經營は、餘りに間に合
せ式にして殺風景な保育室、乾き切つたアスファル
トの運動場等を多くみる、黒い土と緑の草、紅の花
の世界がほしい、大いに環境の整理を要望す

(一二)

2、幼稚園の園舎を小學校の校舎と別にして欲しい

(一二)

3、運動場が同じ場所であるため體操の時間幼児が邪魔
になる場合が多い、幼児と兒童との遊び場所は別
あつて欲しい (一二)

4、幼稚園はその目的に向つて保育精神を確立し、それ
が遂行されんことを望む、徒らに小學校への追隨迎
合は不可である、大乘的見地より指導完成の上は小
學校教育と背馳することあるべからず (一二)

5、父兄及子供の中には幼稚園教育を受けたことを自慢
に思ふものあり、教育上に及ぼす影響を考へて、大
いにこの點に留意されたい (一二)

6、毎日朝會、晝會如きものをされて一日に一度、一緒
にお話を聞いたり、歌をうたつたりしては如何

7、出来るだけ無邪氣な天真爛漫な子供にして欲しい (一一)

(八)幼稚園より小學校に對する希望

(一)幼稚園と合同して兒童に關する研究會及び懇談會を開
催されたい。

指導と保姆が子供に關した事柄を打診けて話合つて教育
上の資料とする必要だと思ふ、教育の目的に於て何
の異なることがあらう。幼稚園の保姆が一年乃至二年の間、
家庭の延長として子供に接して來た保育の結果を報告した
り、又小學校側から教育方針なり保育上の缺陷なりを御教
示いたゞいて互に懇談研究して斯道のために邁進すべきで
あると信するのである。今回の調査に於て市内七十八校の
御意見を聴したところ、大部分贊成の回答を得た。次にそ
の例を擧げれば

1、この時代に於ける教育は一生を通じて最も陶冶され
易い時期であるだけに幼稚園と小學校との連絡を密
接にして、一貫した教育方針のことに指導することに
は必要である (二五)

2、子供に關しての懇談會及研究會を入學當初又は一學
期末或は年度末に於て開催するならば、各兒の個性、
環境、家庭等を理解する上に、且保育反省の資料と

するために極めて有効である。 (二九)

3、訓導は幼稚園教育の目的及内容の如何を又保姆は一年生の教科の教授過程等を充分に認識してその指導方法の懸隔を少くする様努めることが大切である。

(一一)

4、兒童の發育過程を知るため必要である。

(2) 低學年擔任訓導並に保姆の參觀交換會を開催せられたし、

小學校教育と幼稚園保育は具體的な手段方法に於て自らその内容を異にするものと思ふ。

小學校に於ては子供の能力を陶冶して或る標準までは無理にも引きあげて行かうとする積極的な態度が必要であるに反し、幼稚園に於ては子供の生れつきも遊びの本能を整理して、調和のされた心身の發達を、善良な性情を培つて行かうとするのである。

随つて子供の生活状態は少からず違つてゐるものも考へることが出来る。雙方互に暇をつくつて生活狀況を參觀して仕事の内容を理解し合ふことは年齢の接近した低學年兒童及幼稚園幼兒の密接なる連絡を圖る上に最も大切である。然しその方法については大いに研究すべきである。

前記の如く今回の調査に於て大部分必要なりこの回答を得た。次にその例をあげれば、

1、縦の連絡を圖つてお互にその前後を理解し合ふことは、その教育價値を大にして教育の能力を高めることになる (一二)

2、保姆の低學年參觀を希望し、特に低學年の研究授業のある場合は是非參觀されたい (一五)

3、隨時自由に參觀を希望する (一四)

4、幼稚園の保姆は常に幼稚園幼兒の擔任者なるも、小學校一年生の擔任者は年々交代して大抵の場合はこの高學年擔任者である場合が多い、この點より考へて幼稚園を參觀することは必要だと思ふ (一一)

5、既に實行してゐる (一三)

(3) 一學年の學習を合科的に考慮されたし 今回の調査に於て御意見を伺ひその内で同じ内容をもつものを次の如くまとめ得た、その例をあぐれば

1、子供の生活に即し學習作業に變化を發展を考慮し、更に心身の發達に無理を少くして綜合學習することは智能及人間教育の行はるゝ所以にして合科的取扱ひの必要とするところである。 (一八)

2、既に必要を認め實行しつつある。 (一五)

3、幼稚園より小學校兒童としての第一學期間の生活連續は極めて自然に合科的ならざるを得なくその色彩

も濃厚である。然し各教科のもつ目的達成のため次に分科的取扱ひをなす様になる (九)

4、合科的取扱は必要であり又望むところであるが現在の制度下に於ては深い研究を要す (九)

5、必要ではあるが實行は困難にして危険である (六)

(九) 批判及反省

全體を通して見るに小學校側に於て云はんとする處は、いづれも幼稚園児が豊富な生活經驗を持つ爲に、又團體的生活に馴れきつてゐる爲に、學習指導上種々な困難を伴ふ處から、學習態度に多くの悪い實例を示されて幼稚園側に反省を促してゐるが、勿論これは幼稚園側としても大いに研究する必要あると同時に小學校側としても今一段に御考慮を願ひ度いと思ふ。

現在の小學校組織に於ては幼稚園児が一學級の13弱に過ぎぬ故に、一齊的取扱をされる場合、特別な考慮をされて指導されぬ時は入學の喜びにもえた幼児等に、不足不滿の感じを持たせるは當然の事にてその結果、いろいろの惡評を受けねばならぬ事は、幼稚園側としても、保育者側としても實に遺憾に思ふ處なり。

小學校側としては、その學級經營上、級の成績如何に全力をそゝがれるのは當然の事ながら、眞の幼児童教育の立

場から、入學當初はつきめて、個人的指導に重きをおかれ、遊びの誘導にも、生活訓練にも充分な御考慮を煩したい。然る後に徐々に學習態度を訓練されたならば實例にも示されてある如き、幼稚園時代に訓練つけられた種々の良習慣と相俟つて必ずや低學年教育の實績を擧げられる事と思ふ。

幼稚園側としても是等學習の基礎ともなるべき諸事項の實例を再度反省し「幼きが故に」この通念から知らずくの内に入り易い種々の缺陷を、保姆たる者、心して考へねばならぬ事と思ふ、慎重考究して、體力、精神力共に健全なる第二國民の芽を培ふ重任に努力、邁進すべきである。

いづれにせよ現在の小學校低學年教育の内容と幼稚園教育の内容とに、ある懸隔のある事を認められるは止むを得ざる事にて、一日も早く幼稚園教育に義務制の決定されん事を望む、そは小學校と幼稚園とを結ぶ何よりの方法なり。

以上

幼時の追憶

その二、一家離散

千叔母と祖父彦六

ローマ國道が、髮の青白い分け目のやうに、
ヒースの野を真直に、白く
延びてゐる。さかしら人は
今昔の日を對照し、
掘り、測り、比較する――

「大驚」を誇らかに掲げ、
ローマ國道を歩むヘルメット姿の昔の軍團兵を
虚空に描きながら。

しかし、私には、背の高い真鍮のヘルメットを被つた
軍團兵は少しも浮んで來ない。眼の前にすぐ出て來る
のは母の御姿――
あの大昔の街道、ローマ國道を歩いた時
幼い私の手を引いて下さつた母の御姿。

曾 根 保

この詩はイギリス近代の詩聖まで稱せられたトマス・
ハーディの作である。その昔、シーザーはイギリスを支配
するに及んで、幾條かの軍用道路を造つた。これをローマ
國道と呼んだが、今日その幾つかは現存してゐて、考古學
者や歴史家に研究の資料を提供してゐる。吾々も、東海道、
その他諸藩に作られた松並木の街道を通る時、參勤交代の
道中を想ひ浮べ、鎗振りや奴さんを描くのであるが、ハー
ディは、ローマ國道を見て、恐らくは今亡き母を偲び、
幼時の追憶に耽つたのである。私にはかうした幼時は想ひ
出せない。多分、母は幼い私の手をまつて椽側なき歩かして
下さつたことであらうと思ふ。しかし、家には子供が
多く、手が不足してゐるためか、私なき殆んぎ子守の手で
幼時を過してゐるやうに思はれる。極微かな記憶である
が、子守の家へ行つたこと、その近くに村の鎮守の森があつ
り、お祭に暴れまはる牛鬼、の竹で編んだ大きな胸體があつ

たこぎ、小學校の上の小さなお宮の日當りのよい椽でよく遊んだこまなぎが想ひ出される。町はくの字形の一筋町であるが、小學校はくの字の右側、中程に當るこころの一段こ小高い丘の上にあつて、時間を告げる板木が町中に響いた。廣い校庭で、子守こ遊んでゐるこ、袴をはいた二番目の兄が教室から出て来て、眞面目な顔をして板木を叩いてゐるのをよく見かけた。級長だつたのださうである。

小學校の庭の片隅のブランコは、幼い私、いや子守の遊び道具であつたであらう。石垣を一つ登るこ先程言つた小さいお社があつて、その右横から數丁上つた處に池があつた。煙硝庫の池こ呼んでゐたやうに思ふ。池の上手、即ち向ふ側に白い壁の火藥庫があつたからである。避雷針こやらが光つてゐた。この池は今想ひ出しても魔の池こいふ感じのする池で、夢が池一面に繁茂してゐた。夢でみる恐しい池は、この池であつた。それでも夏になるこ、水口のあゝる土手の明るい側で子供達はよく泳いだ。一人で泳ぐこ、カッパが尻の穴を抜き取るこか言ふので怖がつて、皆が一緒でなければ行けなかつた。私は泳ぎに行つたこことはないが、この邊には女郎蜘蛛こいつて喧嘩に強い蜘蛛が澤山にゐるので、兄達こ取りに行つた覺えがある。派出な黄色こ黒の縞のある大きい蜘蛛で、樹の枝にひつ掛けて取つて歸り、庭の樹に巢を張らせて置く。屈強な相手が見つかる

こ、その巢の中に入れる。大抵は大きい方が小さい方を手速く絲で巻いてしまふ。それから血でも吸つてしまふのであらう、負けた蜘蛛の脚が空つぽになつて巢にひつかつて見える。この頃から他人の喧嘩なごに興味を持ち始めるのかも知れない。鬪鶏、さては南豫の名物鬪牛にもやがて興味を覺えて來るのである。

煙硝庫の池こ關聯して、私はこゝに一番上の兄、廼兄に就いて語るこまにしよう。廼兄は當時、宇和島中學の上級生であつた。暑中休暇の一日であるらしい。既の前で、一尺四方の柱を約一間の長さに切り、それを大きな輕節みたいな形に削り始めた。傍につき切りの私は、何にするのかきいた。他の二人の兄も手傳つてゐる。何でも軍艦こやらを造るこいふのである。ガンカンこいふものが何かさへ私には解らなかつた。さういふ點では田舎の子供は都會の子供に比べて智慧のつくのが極めて遅いやうである。

やがて輕節みたいなものは二階の物置部屋に運ばれた。二階は大きく三つの部分に分れて、真中二つが座敷で、この二つには疊の上に、平生は澁紙が廣々敷きつめられてあつた。こゝでお習字が毎日行はれたのである。前回言つた鐵山先生は老人で、眼が薄かつたので、主として大字を教へてゐられたやうである。祕藏弟子こ言はれた二番目の兄は鐵俊こいふ號をつけてゐた。父の俊藏こ師匠の鐵山

を組合せたものである。父は如山堂主人と號してゐた。

殘存してゐる父の手紙には殆んご全部、この號が記されてゐる。北側、即ち通りに面した座敷の床には武者人形が飾られたこまがあつた。菱餅をこしらへてゐる場面は今も想ひ出される。下手な切り手は正しい菱形にならず、屑ばかりこしらへて頭を搔いてゐた。東側の部屋はさういふ風になつてゐるたか想ひ出せない。お蠶を飼つてゐる頃、母の妹の千叔母さんが真夜中にこゝで劇樂自殺をしたさうである。何か深い事情があつたらしい。恐しい悲劇であるに違ひない。千叔母さんはまだ十臺の頃、遙々一人で東京に出て水原産婆學校に入り、その第一回生であつたさうである。その時の記念寫眞を私は今所有してゐる。母は處々方々を流浪した時も、父の位牌と一緒に千叔母さんの位牌を持つて歩いてゐられた。小さい桐の白木に「今泉千子之靈」こあつたやうに記憶する。悲劇の家は今日も陰慘な影に包まれてゐる。庄屋の高い石垣の下に、廣い葡萄棚の下に喘ぐ不吉な家、私は自分の生れたこの恐しい家を、よくボウの小説の中で讀むやうな氣がしてならない。

母は幸ゆきといつて、慶應四年生れである。母の父、今泉彦六は伊達侯の城下、宇和島の廣小路に住む漢學者であつた。百何十俵かの扶持を頂戴して、家老の次の次さいふ地位にあつたさうである。今も残つてゐる二棟の土藏を圍む廣大な

屋敷は昔の裕福を物語るに充分である。母の弟、道太郎は丸龜、徳島の稅務署長をしてゐるが、私が尋常五年の春、別子銅山の運輸課々長に轉じ、間もなく肺炎で急逝した。

祖父彦六はお江戸から土産に柱時計を宇和島に將來した人で有名ださうである。私の中學時代、當時健在であつた祖母はよく祖父の話をしてきかしてくれた。辻斬が流行つて友達の某がその本人だつたさか、祖父の若い頃には今日の時計さいふものが無かつたから、お城に大きな火鉢があつて、灰で溝をギグザクに作り、溝の中に盛られた粉炭の火がその角まで來るさ一時間さか二時間さかで、その度に櫓の太鼓をたゞいて時を告げたなご、なか／＼面白い話が多かつた。私の中學時代にはまだお粗末な日時計が親類の家へ行くさ轉がつてゐて、子供のおもちやになつてゐた。祖父の若い時代には、學校——明倫館かもしれない——へ朝行くにも規則があつて、お城の太鼓が合圖で、それが鳴らなければ家を出てはいけなかつた。たゞし、溝のドブ板に片足がかゝつて居れば差支ないさいふので、大抵毎朝、片足をドブ板にかけて太鼓の鳴るのを待つてゐたさうである。

祖母はまた、穂積陳重さんが歸郷された時なご、中學生の私に、あの人の家は足輕の身分であつたが、偉くなつたものだ。尤も足輕さいふ名では呼んでゐるなかつたが、今泉家なごさはまるで格が違つてゐるが、なごさ話してゐた。

昔の家來さいふのか、時々野菜物なごをさげて挨拶に来る人々があつたが、玄關で殆んぎ土下座をして、「御後室様、御後室様」に祖母を呼んでゐた。その時ばかりは私も、落ちぶれたりさはいへ、祖母さんも昔は大したものだつたであらうと想像したりした。祖母は母の厚い孝養に八十幾歳まで生きてゐた。ひざい喘息もちで、やめればいゝのに、ゴホンゴホンいひながら、それでも煙管を放さなかつた。

兄の軍艦と無錢旅行

さて、千叔母さんの亡靈の出さうな部屋から、西側の部屋へ移る。こゝは板の間で、姉兄の造船所である。例の鏝節のやうな型にブリキを被せるのである。ヒチリンで鏝を焼いて、臭い薬にチュツミ入れたかと思ふミ手速く臍を掬つて、銀色の一滴をブリキの合せ目に落してなすりつける。同じこゝを毎日繰返し繰返して、やつと胴體が出来た。それに蒸氣機關を据え附ける。デッキを張る。キャビンが出来る。煙突が二本出る。マストを立てる。細かい仕事はまだ幾日も続く。ペンキで塗る。萬國旗が張り渡される。愈々完成したのである。艦名は何であつたか、今想ひ出せない。「やまご」か「やしま」であつたやうな氣がする。本物の軍艦なら進水式があつて、艦装があるのが順序であらう。しかし、兄の軍艦は逆に行つて、愈々進水式さいふ日になつた。この日、天氣清朗で、有象無象は煙硝庫の池に

先を競つて駈つて行つた。私も勿論その中の一人である。土手に着くミ、アルコール・ランプは點せられた。蒸氣が出る。スクールが廻轉する。兄は得意顔で羨を掻き分けて池の中に降りて行つた。平衡を保つために重い重りが更に加へられた。ところが、不幸にして兄は足を迂らして軍艦もろも池の中でひっくり返つてしまつた。無念や、一ヶ月以上の辛苦の結果は文字通り水泡に歸してしまつた。試験第一日はかくして失敗した。私はこの日の失望を今でもはつきり覚えてゐる。後にこれは完成して、宇和島へ荷物として送られ、さる縁ある家に保存されてゐた。私の姉兄に就いての想出はこの軍艦から始まつてゐる。發明好きさいふか、氣違ひさいふか、兄はその頃「電氣之友」さいふむづかしい雑誌を愛讀してゐた。その後多くの發明品を造つて、實用新案や專賣特許權さへも獲得した。高橋是清さいふ名前を兄や母の話に聞いたのはその頃である。高橋さんが特許局長であつたのである。兄は二十臺で天折したが、私には色々な影響を與へてゐる。こゝにはその中の一つだけ附け加へて置かう。

姉兄の中學四年生の頃のこゝであらう。當時學生の間に行はれたこゝで四國一周無錢旅行さいふのがある。勿論夏休みを利用してのこゝである。私も企てたこゝがあつたが途中で引返した。兄は一周した。四國には弘法大師のお開

きになつた四國八十八箇所があるので、年中、特に夏分はおへんぎさんが同行二人の笠をいたゞき、白装束で村から村へ巡禮の旅を續けてゐる。しかも四國の人は情け心が格別で、決して巡禮を冷遇しない。私なきも幼い頃、大洲にゐて、丁度巡禮の道筋に當るころから、「巡禮に御法捨」さいふ聲をきくき、お米をお椀に一杯盛つて施したものである。チリ紙、草鞋の類も施したことがある。學生の無錢旅行も、その邊から考へ出されたものかもしれない。兄は四國を殆んど一周して、もう一息で宇和島さいふころ、即ち宿毛まで歸つて來た。ころが、その町外れを力なく歩いてゐるさい一人の道連れが出來た。もう夕方であつた。色々話をしてゐるうちに連れの人は、兄が今宵の宿泊料に困つてゐることを知つた。そして當時としては相當の大金である金五圓也を恵んでくれた。兄は勿論住所姓名を告げ歸つてから返金するから、お名前を、さいふしたのであるが、連れの人は、いや心配はいらぬ、自分は高知市の齒醫者だが、またそちらへでも來たら寄つてくれ給へ。答へるばかりであつた。兄は歸宅するや母に一切を語つた。しかし「高知市の齒醫者」だけでは、手紙の出しやうもなく、何れ何さかなるだらうと言ふばかりでそのまゝになつてしまつた。月日は又移つて、私が無錢旅行をする年齢に達した時、母は右の話をして、奇特な齒醫者さんを是非探して來

るようにこのころであつた。ころが、母の懇意な婦人傳道師が宇和島美似基督教會から高知へ轉任になるさいふので、この人に依頼したころ、十五六年前の、その恩人はなほ健在であるさいふ報告に接した。母の喜びは大變なものであつた。然るべく、禮をつくし謝意を表したのは言ふまでもない。私の無錢旅行にもこれに似寄つたころがある。私のは無暴な旅行で、半途で挫折したが、下駄で石槌山を登つた痛快さは忘れられない。世の中は交通が便利になつて、人々が互に近く住むやうになつたが、それに反比例して人情は紙の如く薄れてゆくやうな氣がする。もう今日では、無錢旅行なきさいふものは昔語りに過ぎなくなつてしまつた。

三番目の兄——「黙り者の事おこし」

父の歿後、三番目の兄は宇和島の中學にゐる廼兄の下宿に引取られて行つた。さういふ譯で行つたのか、はつきり分らないが、この頃母方の一家がまだ宇和島に住んでゐるから、そこを頼りに送つたのかもしれない。或は又、廼兄が病身だつたから、手傳の意味であつたかもしれない。やうやく一家離散の情況である。私は四男で、弟が一人ある。つまり、私の兄弟は男五人で、女は一人も無い。弟は二つの年に叔父の家に貰はれて行つた。三番目の鼎兄は無口で、よくめそめそ泣いたりするので女みたいだなき叱られて

ゐた。亂暴者の私にはいゝ相手で、私の喧嘩の相手はこの兄にきまつてゐた。弟であるさいふのミ、口が兄より達者だつたのミで、私の方がいつも得をしてゐた。母も或る人に、保はいけずで、我儘ですが、さういふものか、それだけ鼎よりも可愛いゝやうですなごゝ話してゐたさうである。最も兄弟の中で、私だけが一番長く母の膝下にゐたさいふのミが關係してゐるのであらう。長くるたさいいつても、二十歳、三十歳になるまで、母親と一緒に暮せるやうな幸福な人に較べるミ、小學校を卒業しないうちに既に母の手から離れ離れになつてしまつた私達兄弟は、實際慘めな星の下に生を享けたものである。

鼎兄は柔和で評判がよかつた。ミころが、宇和島へ行つて暫くしてのミ、廼兄から、鼎はそちらへ歸つて居らぬか、さいふ電報が來た。家中大騒動で、電話が方々へ飛んだ。話の様子では、兄の藥取りに行つて、歸りが遅かつたためひきく叱られたのが原因で、姿を晦したのである。自殺をしたかもしれないさいふので水上警察にも依頼した。また、獵師の網に死人がかゝつた、鼎かもしれない、なごの噂も傳はつた。本來が氣の小さい子供だから、その心配も多分にあつたらしい。母の實家は、その少し前に丸龜に轉任してゐたので、そこへも電報を打つた。小學生が一人でそんな遠方へ行ける筈もなし、また乗船する時に怪まれ

ない筈もないので、誰一人して丸龜まで行つたミ思つた者はなかつた。ミころが、數日後、來てゐる、安心せよさいふ電報なのである。實は、丸龜の公園の橋の上で、夜しくしく泣いてゐる男の子がある。或る旅館の主人が、きいてみるミ「稅務署に勤めてゐる今泉さいふだけが判つたので叔父の家へ連れて來てくれたのださうである。番地も知らずに飛び出したものだから、晝のうちにはそれでも町を歩いて自分の目的さへ忘れてゐるが、夜になるミ急に心細さを感じて、たゞ泣きに泣いたのであらう。見つかる迄の家中の者の心痛は想像に餘りある。爾後、私の家では「黙り者の事起し」ミ言へば鼎兄のミを指すミになつてしまつた。今は山梨高等工業學校に勤めて極めて暢氣に暮してゐるらしい。

實はれて行く

父が亡くなつてミの位經つたのであらうか。一周忌だつたかもしれない。親類の人が幾人も來て、何か大事なミを相談してゐるらしかつた。私はお八重ばあさん——私はこの人ミ吾々ミの因戚關係に就いてははつきり知らないが——の脊中に負はれて、家の前に繫いである馬の長い鼻を撫でゝゐた。おばあさんは何か哀れつばいミを馬に話してゐる。馬ミの別れらしい。一心多助なら、「おい、青よ」さいふミころであらう。私は馬のあの優しい眼を覺えてゐる

るやうな氣がする。後年、一年志願兵として騎兵第五聯隊（廣島）に入營し、一年有半を馬と共に暮したが、その間も、父の愛馬の長い顔は忘れてゐなかつた。この馬は後に一度再會する機を得たが、彼果して私を識つてゐたかどうか。その時はもう、乗馬でなく駄馬に下落してゐた。父に可愛がられた頃の彼は聰明で、往診から歸つて、表で鞍を取つてやるまで、すつと邸を廻つて裏の自分の厩にはいつて寢てゐたさうである。一度だけ、裏の畑へ無斷で出て行つて豆を食べてゐたさうである。馬物語はいづれ日を更めて執筆させていたゞくこゝにしよう。

その日の午後のことである。奥の間で食事をしてゐた大洲の叔父が川へ魚釣りに行くから皆と一緒に往かうといふので、私は母に着物を着かへさせて貰つた。魚釣りは面白からうなぎゝ話しながら帯を結んで下さつた母は心の中で泣いてゐられたことと思ふ。今度は二番目の徹兄が私をおんぶしてくれた。いつになく皆が優しくしてくれるのが感じられる。町から川まで十數丁、母もおばあさんも一緒だつた。一艘の小舟が吾々を待つてゐる。二人の船頭の外に大洲の叔父と兄と私と三人だけが乗船した。私は母も乗れ、おばあさんも乗れさせがんだが、皆は陸から行くから先へ行つて待つてゐてくれと言ふ。もつと川下に釣竿も用意してあると言ふ。私は本當だと思つて納得した。さよう

なら、さようならが舟と陸とに交はされた。（あゝ、母上よ、あなたの愛兒は幼くしてまた一人、あなたを離れて行く、その時の御氣持を今想つて胸が迫つて來ます。後年今治の港でお別れした時、私はあなたの眼に涙が光つて、顔をそむけられたのを想ひ出します。あなたは多くの子故に幾度お泣きになつたことせう。）

舟は岸を離れた。離れるが早いか、流に乗つた小舟は矢の様に飛ぶ。もう母の姿も見えない。私はこの楽しい舟遊びに嬉しくてたまらず、變化極り無い兩岸の光景に氣をこられて、魚釣りなごはもう忘れてしまつてゐた。

夕方舟は目的地に着いた。たうさう釣竿をもつた人は來なかつた。先年私は子供を連れて、この舟の着いたところへわざ／＼立寄つて寫眞をさつたりした。感慨無量であつた。子供は不思議さうに私のすることを見てゐた。こゝは又私が初めて泳ぎを習つたところでもある。女高師のプールでやつと十米泳ぎ出したばかりの子供に、私の泳ぎ初めの秘傳を披露してやつた。

前回大洲の町の名をあげたが、こゝはもろ加藤氏の居城で、中江藤樹先生の仕官された町として有名である。町の西のはづれに柚ノ木といふ字がある。舟を上つて私達三人はこの柚ノ木の高井兵三といふ標札のかゝつた家にはいつた。この叔父は姓の如く背の高い人で、立派な人であつた。

人格者として町の人から尊敬されてゐた。母、妻との三人暮して子供が無かつたから、私を養子にするつもりで、連れて歸られたのである。今は實子の勤め先、伊豫の三島にゐられるが、齡八十を越して尙御元氣なのは喜ばしい。前回一寸書いた風呂の中の小僧はこの實子である。

高井の祖母と母——かう呼ぶことになつたが、——に可愛がられて、家に残した自分の母を忘れる位に、着いたその晩から親んだ。最も兄が數日一緒にゐてくれたので氣も紛れてゐたのであらう。その時私が七つださするさ兄はまだ十三、四の少年に過ぎない筈である。貰はれて來た弟に、これだけ同情したかは知るよしもないが、數日後に、弟を寝てゐるうちに置き去りにして、五里のさびしい路を取つてかへす兄が「兄ちゃん」さ後から呼ぶ弟の聲をきいて幾度か立止りはしなかつたであらうか。十三、四の少年にそんな仕事をさせた母もさぞ辛かつたことであらう。弟を新しい父と母の手に托して、一家の窮乏を救ふさいふ大任を果して、母に仔細を報告をした時、少年の腫は誇らかに輝いたかもしれないが、それを聞いた母の眼は涙で曇つたことであらう。その後も尙ほ不安の幾夜が続いたことであらう。身の細る思をしたのは二宮金次郎の母だけではないのである。

柚ノ木に來て二日か三日目のことである。兄は私に字を

書かせるといつて手本を書いてくれた。「花開天下春」さ草書で書いたもので、私は今もその書體をはつきり記憶してゐる。半紙を縦に三枚ついで位の大きさの紙であつたやうに思ふ。何枚か稽古をした後に、やつさ淨書が出來た。私は小さい右の掌に朱肉を塗つて落款の代りに押した。出來が良かったさうである。長い間、佛壇の横に張りつけてあつた。これが私が筆を執つて字を書いた最初である。この些細な一事が、後年私に書道を志させた一つの動機となつたのを思ふさ、その他大小の事件をも考へ合せて、人間、いかささへ思ふのである。

習字をした翌朝、私は目を覺して隣に寝てゐた筈の兄がゐないのに氣つき、家中を探し求めた。便所の中までのぞいてみた。聲をあげて泣いた。叔父も叔母も一生懸命に私をやくりしてくれた。しまひには叔母の胸に抱かれて泣きぢやくりをしてゐた。うまうまさ筋抜けさやらをされたのである。この兄も糖尿病から腎臟病を起して、昨年暮に、他界してしまつた。まだ五十にもならないのに、惜しいことをした。五人の子供を残して行くのはさぞ苦しかつたであらう。いつの世にも同じ悲惨なことが繰返し繰返し起つてゐる、あちらにも、こちらにも……

(つづく)

ハイ デイ

(第二十回)

津 田 芳 雄 譯

「いいねえ。そんなのだし、温くて息つかひも樂になるだらうねえ。だけごのお話はもう止めましょうね。世の中にはまだまだ氣の毒な病人だつてゐるのに、わたしはお蔭で毎日おいしい白パンがいただけるし、こんな温い肩掛けまで送つていただいたのだし、その上、ハイデイちゃんがお見舞に来てくれるのだもの。有難い、有難い。今日も何か読んでおくれ、ね？」

ハイデイは隣の部屋から讚美歌の本を取つて来て、次ぎ次ぎにおばあさんの好きな歌を選び出して讀んだ。おばあさんは手を組み合はせ、苦勞に疲れた顔に、たのしい知らせでも聞いた時のやうな安らかなほほゑみを浮べて聞いてゐた。

ハイデイは急に讀み止めた。

「おばあさん、もう快くなつて？」

「ああ、聞いてゐるうちに、だんく、快くなつて来たよ。おしまひまで讀んでおくれ」
ハイデイはつづけた。

まなこかすみ

闇せまり來れど

こころいよよ澄みて

旅路の果ての

つひの樓家すまがの

近づくぞ見ゆる

こころたのしや

おばあさんは、愉たのしげに何かを待ちもうけるやうな顔をして、この最後の句をしづかに繰り返した。ハイデイは自分が山へ歸つて來た日の、あの

美しい夕やけの景色を思ひ出し、うれしさうに叫んだ。

「おばあさん、『つひの棲家の近づくぞ見ゆるころたのしや』つて、わたし、わかるわ。おうちへ歸るつて、うれしいこころね」

しばらくするに、

「暗くなるから、もうかへるわね。でも、おばあさんが快くなつて、うれしいわ」

ミハイディが云つた。おばあさんはその手をしっかりと握りしめた。

「ほんごにね、お蔭ですつかり氣持が樂になつたよ。かうして、いちんちひさりぼつちで、人の聲も聞かず、日の目も見ずに、黙つて寝てゐるに、いろんな悲しいこころが思ひ出されて、時には辛棒し切れなくなつたり、もう一生お日様も拜めないやうな心細い氣持になるのだけれぎ、かうやつて時々ハイディちゃんが來て讚美歌を讀んでくれるに、又氣が晴れ晴れして來るのだよ」

すつかり暗くなつたので、ペーテルをせき立てて外へ出るに、やがてお月様がのぼつて雪の原を一面に照らし、あたりは晝のやうに明るくなつた。ペーテルは構を引き出し、ハイディを後に乗つけ

て、風を切つて飛ぶ二羽の小鳥のやうに、山を迂り下りた。

その夜ハイディがふかふかした枯草の寢床に這入つた時、おばあさんのひくい枕や、いろ／＼云つた言葉を思ひ出し、毎日讚美歌さへ讀んで上げられたら、おばあさんはきつ／＼快くなるのに、今度おばあさんの家へ行くまでには一週間も待たなければならぬのだと思ふに、辛くてたまらなかつた。ハイディはさうすればおばあさんの大好きなあの歌を毎日聞かせてあげられるか、一生懸命に考へたが、急なこころを思ひ付き、うれしくつてさても朝まで待ち切れない氣がした。けれどもふみ、考へに夢中になつて、この頃寢しなに必ずするお祈りを忘れてゐたこころを思ひ出し、床の上で起き上つて、自分のこころ、おぢいさんのこころ、おばあさんのこころを、一生懸命に神様にお祈りをして、すやすや安らかな眠りに入つた。

十九、冬のつづき

そのあくる日、ペーテルはお辯當を持つて、きちん／＼遅れないで學校にやつて來た。

デルフリの子は、おひるになるに家へ食べ

に歸つたが、家の遠い子は、並んで膝の上にお辨當をひろげて仲よく食べた。一時まではおひる休みで、それから又勉強がはじまる。學校がすむと、ペーテルはハイディの所へ遊びに寄つた。

ペーテルの姿を見るに、ハイディは飛んで来て掴まへた。さつきから待ち兼ねてゐたのである。

「ペーテル、わたし、いいこご考へたのよ」

ハイディはせかせか云つた。

「なんだい」

「あんた、字が讀めるやうに勉強しなきゃいけないわ」

「してるぢやないか」

「そりやさうだけれぎ、わたしの云ふのは、ほんまに何でも讀めるやうになることなのよ」

「僕、だめなんだ」

「そんなことなくつてよ。誰にでも聞いてごらんなさい。わたし受け合ふわ」

ハイディはきつぱり云つた。

「フランクフルトのおばあさまだつて、もうせん、さう仰しやつたわよ。わたしにも、あんたのいふことなんか、信じちやいないつて」

ペーテルはびつくりしたやうな顔をしてゐた。

「わたし、あんたに教へてあげるわ。すぐにおけいこするのよ。そしたら、これからはあんたが、毎日一つづつおばあさんに讚美歌を讀んであげれるでせう?」

「いやだ、そんなこと」

ペーテルはぶつぶつ云つた。

こんなに正しい親切なよいことなのに、しかもあんなに楽しみにしてゐたことなのに、ペーテルがいつまでもしつこく拒みつづけるので、ハイディは腹を立て、ペーテルを正面から睨みすゑて、おぎし付けた。

「わたしの云ふ通りにしなかつたら、今にさうなるか、云つてあげませうか。あんたのお母さんは、しよつちう、あんたをフランクフルトへ勉強に出すつて云つてるでせう?。フランクフルトの學校つて、わたし知つてるわよ。クララを馬車で散歩に出た時に見たのよ。それはそれは、とても大きな建物で、大人になつても行く學校よ。先生だつて、わたしたちの學校みたい、やさしい先生が一人つきりなんぢやなくて、とてもきつさりいらつしやるのよ。みんなは教會に行く時みたい、黒い服を着て、帽子だつて、こんなに高いのをか

ぶつてて——」

ハイディは手をのばして帽子の高さをして見せた。ペーテルは背ずちがぞ一つ寒くなつた。

「あんたはそんな人たちと一緒に勉強しなきゃならないのよ。もしかあんなの讀む番が来て、讀めなかつたさしてごらんさい。みんなにからかはれるか。みんなは、ティネツテよりかもまだ意地悪よ。そのティネツテさ来たら、見せてあげたいくらの意地悪なのよ」

「そいぢや、勉強するよ」

ペーテルはなさけなさうな、一方又むしやくしやるやうな聲で云つた。

たちまちハイディの機嫌は直つた。

「いいわ、ぢやすぐ始めませう」。

ハイディはうれしさうにさう云ふと、早速忙しさうに、本を取つて来るやら、ペーテルを机の前に引つ張つて来るやらし始めた。

お醫者様の持つて来て下さつたクララのおみやげの中に、ペーテルを教へるのに丁度持つて來いの本があつた。それは覚えやすいやうに「いろは」を面白い歌に詠み込んだもので、昨夜ハイディは教科書に使はうと決めておいたのである。二人は

机の前に並んでかけ、その本にかがみ込んで、おけいこをはじめた。

はじめの文句を二三度もペーテルに讀ませて見たが、つつかへ通しなので、ハイディはお手本に讀んで聞かせた。

「いろは」を覚えぬ子供には

閻魔えんまさまからおつかひだ

「行きやしないよ、僕」

ペーテルは強情さうに云つた。

「まあ、ごいへ？」

「閻魔さまのこゝへさ」

「ああ、そのこゝなの？ それば、あんたが早く覚えさへすれば、お使ひなんか來やしないこゝよ」

ペーテルは一生懸命に、い、ろ、は、の三字を幾度も書いてゐた。

「この三つはもう及第させてあげるわ」

はじめの文句はかうして覚えられたのだから、少し先きの方まで讀んで聞かせて、次ぎへすすむ下地を作つておかうと思ひ、ハイディは澄んだ聲でゆつくり讀んで行つた。

「にほへ」は易しいな

むづかしがるのはお馬鹿さん

「ちりぬるを」忘れるこ

恥をかかねばなりません

「わかよたれそ」はその次ぎに

でないさあみが恐ろしい

「つねならむ」は大いそぎ

「うろのおくやま」一さまたぎ

「けふこえて」しまひませう

ハイディはペーテルがあんまりおこなしいで、何をしてゐるのかさ、ちよつと讀み止めた。

歌の中の「闇魔さま」だの、「恥をかく」だの、「あみが恐ろし」だのさいふ、覺えのわるい子への懲らしめが、よほさひさくこたへたものさ見え、ペーテルはおびえ切つた顔つきで、ハイディをぢつと見つめてゐた。氣立のやさしいハイディはたちまち可哀さうになつて、慰めてやつた。

「こわがらなくつてもいいのよ、ペーテル。これから學校のかへりに毎日來て、今日みたいな調子で勉強して行けば、字なんかちぎにみんな覺えてしまへてよ。そしたら、なんにもこわくなんか

いでせう？　でも、毎日きちんと來なくちや駄目よ。雪が降つたつて、あんたは大丈夫なんでせう？」

ペーテルはハイディの呟附けをきちんと守り、歌の文句を膽に銘じながら、毎日一生懸命に勉強した。おぢいさんは煙草をくゆらしながら、時々そばで聞いてゐて、噴き出しさうになることがよくあつた。一生懸命によく勉強した時には、ペーテルは晩御飯の御馳走になつた。さうするさ、さつきまでの勉強の苦しさも、すっかりつぐなはれるのだつた。

かうして冬は過ぎて行つた。ペーテルは字はかなり覺えたが、歌の文句には毎日する分震へ上がらされた。

「あ」をさかさ

間違へりや

こわいところへ連れてくぞ

こハイディが讀むさ、

「でも、僕は行かなくつてもいいんだよ」

こつぶやきながら、早く覺えてしまはないさ、今にも誰かに襟がみを掴んで引きずつて行かれる

かき、びくびくして、一生懸命に覚え込むのだつた。

あくる日ハイディは讀んだ。

「きゆめみし」でまごつくし。

壁の杖で打たれるぞ

ペーテルはそつこ壁を見まはしてから、威張つて云つた。

「杖なんか、ありやしないぢやないか」

「だけぞ、おぢいさんは箱の中に、あんたの腕くらゐも太さのある杖を持つてるの、あんた知らないの？」

ペーテルは、そのはしばみの杖を知つてゐた。

それで慌てゝ本にかがみ込み、「きゆめみし」に取つ組んだ。

その次ぎの日には、

「えひもの書けない子供には

今日はおやつはあげません

ペーテルはパンやチーズのしまつてある戸棚をじろりこ見ながら云つた。

「誰も書けないなんて、云つてやしないぢやない

か」

「ほんごうだわね。ぢや書けるのなら、も一つ先きまで行きませうよ。そしたら、もうあまたつた一つきりよ」

ペーテルはまだ書けなかつたけれど、ハイディがその先きを

「せす」で止まれば

ものわらひ

「學問せす」だぞ

そしられる

こ讀んだ時、急にあのいかめしい黒い帽子をかぶつたフランクフルトの學生たちが、意地悪な顔をして、大勢で自分を馬鹿にして嘲し立てる有様が目の前に浮び、あわてて「せす」にしがみついた。たうごう何度もやつて見た末に、目をつぶつても書けるやうになつた。

その次ぎの日は、もうたつた一つ覚えればよいだけなので、ペーテルは威張つてやつて來た。

「ん」でおしまひ

いそがうよ

ぐづぐづしてるミ攫はれる
ホツテントットの住む國へ

ミハイデイが讀むミ、ペーテルは馬鹿にしたやうに云つた。

「そんなもの、何處に住んでるんだか、誰も知らないのに、攫はれやしなないぢやないか」

「おぢいさんなら知つててよ。待つてらつしやい、わたし訊いて来るわ。今牧師さんさちよつこそこまでいらしつてるんだから」

ハイデイが駈け出さうとするミ、ペーテルは必死になつて悲鳴をあげた。

「お止しよー」

ペーテルはまだ「ん」を覚えてゐないので、おぢいさんミ牧師さんに、ホツテントットの住む國へ攫はれて行きさうで、こわくてたまらないのだつた。

「どうしたの？」

ハイデイはペーテルがあんまり怖さうにしてゐるので、びつくりしてたづねた。

「何でもないんだ。だけぎ、行つちやいやだよ。僕、勉強するからね」

でも、ハイデイはホツテントットの住む國つて何處だか訊きたかつたので、訊いて来るミ云ひ張つたが、たうさうペーテルの必死の頼みをきいてやるこゝにされた。その代り、「ん」ミいふ字をもう決して忘れないまでに覚えさせるばかりでなく、なほその上、今日から新しく字を組み合はせた「こぎば」を少しづつ始めるこゝにした。

こんな風にして、毎日がぎんぎん過ぎて行つた。霜が溶けて雪が柔くなり、またその上へあさからあさからミ雪が降り積つたので、ハイデイは三週間もあばあさんのこゝろに行けなかつた。それで、なほのこゝ熱心にペーテルに教へ込み、自分の代りにおばあさんに讚美歌を讀んであげさせようとした。

ある夕方、ペーテルはハイデイのこゝろから歸つて来るミ、いきなり云つた。

「僕、出来るんだ」

「何が出来るんだね、ペーテル」

お母さんはたづねた。

「讀めるんだ」

「ほんたうかい、お前。おばあさん、あれを聞きましたか」

おばあさんは、さうしてそんなことになつたのかさ、しきりに不思議さうにしてゐた。

「今から僕、讚美歌を一つ読んであげるよ。ハイディがさうしろつて云つたから」

お母さんは急いで本を取りに行き、おばあさんは久し振りで美しい言葉の聞ける楽しみに、うれしさうに横になつた。ペーテルは机に向つて読みはじめた。お母さんはそばに付きつきりで、一生懸命に耳をすまし、一ミ區切り毎に、感に堪へぬやうに叫んだ。

「なんこいふ、思ひがけないことだらう！」

おばあさんはペーテルの讀む一語一語に耳を傾けて聞いてゐるが、口に出してはなんにも云はなかつた。

あくる日、學校で讀み方の時間に、ペーテルの讀む番が来るさ、先生は

「ペーテル君はまたぬかすことにしようかね。それとも、ひさつやつて見るかね、その、讀む——んぢやない、君の、文章の中をつまづいてあるくけいこをさ」

さ云つた。ペーテルは本を取り上げ、一度もつかへずに、すらすら三行讀んだ。

先生は本を下におき、今まで見たこともない不思議なものをでも見るやうに、ためつすがめつペーテルを眺めた揚句に云つた。

「ペーテル君、全く奇蹟だよ。先生はこれまで、ぎれ位骨折つて、辛棒つよく教へ込まうとしたかわからないのに、君は『いろは』さへろくに云へなかつた、それが、さうだ。先生がもうさても駄目ださ諦めようとした途端に、急に君は長い文章を間違へもせずに、はつきりさ讀めるやうになつたさ。いつたい、今の世に、さうしてこんな奇蹟が起きたんだね」

「ハイディなんです」

先生はびつくりしてハイディの方を見るさ、ハイディはごく當り前の無邪氣な顔をして、自分の席に腰かけて居り、一向にそんな奇蹟なご行ふやうな、人間ばなれのした様子もしてゐなかつた。先生は又言葉をつづけ、

「それに、君は何から何まで變つてしまつたぢやないか。もさは一週間も二週間も續けて缺席なんかしてゐたのに、この頃は一日も休まずにやつて来るね。誰が一體君をそんないい子にしてくれたのだね」

「アルムをぢさんです」

先生はますます不思議さうに、ペーテルとハイ
ディの顔を代りばんこに見比べた。

「それでは、もう一ぺんやつて見よう」

先生は要心深くさう云つて、ペーテルに讀ませ
るさ、ペーテルは見事に三行を讀んでのけ、十分
腕前を見せた。——ペーテルは、たしかに讀める
のだ。

學校がひけるさ、早速先生は牧師さんのところ
へ駆け付け、ハイディとおぢいさんが二人がかり
でなし遂げたこのうれしい話を聞かせた。

毎晩、ペーテルはハイディの云ふことをよく聞
いて、讚美歌を一つだけ、おばあさんに讀んであ
げたが、でも、さんなにすかしても、二つさは讀
まなかつた。おばあさんも、強ひてさは頼まなかつ
た。お母さんは、息子がこんなにも讀めるやう
になつたうれしさがまだぬけきらないで、しよつ
ちう息子の寝顔に見入りながら、さも満足さうに
云ふのだつた。

「字だつて讀めるやうになつたんだもの、このさ
き、まだどんな偉いものにならないさも限らない
よ」

ある晩もお母さんが又かう云ふさ、おばあさん
は答へた。

「さうだよ、さもなくあの子が発えてくれたの
は、結構なこさだねえ。だけさ、わたしは早く春
になつて、又ハイディが来てくれるさいいと思ふ
よ。ペーテルが讀んでくれる讚美歌は、さうも少
し違ふやうなんだよ。こさばが澤山ぬけてるで、
ほんたうのはさうだつたつげなんて思つてるさう
ちに、意味がわからなくなつてしまつて、ハイデ
ィが讀んでくれた時のやうに、びつたりさ胸に來
ないんだよ」

ほんたうを云ふさ、ペーテルは一等めんさうく
さくない讀み方をしてゐるのだつた。むづかしい
字や、長つたらしい字が來るさ、こんなに澤山字
があるんだもの、一つや二つぬかしたつて、おば
あさんにわかるものかさ、ひさりで決め込んで、
さんさん飛ばして行くのだつた。だからペーテル
の讀む讚美歌は、つまり、大切な字はたいていぬ
けてゐるさいふこさになるのだつた。

保育實習科新卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十五年三月、左の二十五名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ〴〵適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望に燃えてゐます。

氏名	出身校	生年月日	氏名	出身校	生年月日
伊藤 逸子	廣島縣立三原高等女學校	大正十一年七月十二日	津村満喜子	東京 惠泉女學園	大正十一年三月十二日
大瀧 照子	茨城縣立下館高等女學校	大正十年十月十八日	辻 繁	東京 櫻蔭高等女學校	大正十年五月三十一日
桂 幾子	東京女子高等師範學校	大正十年八月三日	手賀 すみ	群馬縣立前橋高等女學校	大正十年六月二十三日
川口 幸子	附屬高等女學校	大正十一年九月二十七日	永田 ふみ	東京 白百合高等女學校	大正十年十二月二十一日
久保 紀子	長野縣立長野高等女學校	大正十一年一月十五日	廣瀨 たみ	東京千代田高等女學校	大正十一年三月二日
小橋 夾子	愛媛縣立松山高等女學校	大正十年十二月十五日	水原富彌代	和歌山縣立和歌山高 等女學校	大正十一年一月二日
清水 明	岡山縣 山陽高等女學校	大正十年十月十一日	宮原 燕子	和歌山縣立和歌山高 等女學校	大正十一年一月十三日
島田 文子	宮城縣立第一高等女學校	大正十年十月十一日	森 葉津子	大阪府立夕陽丘高等女 學校	大正十年九月五日
白石 覺子	靜岡縣立沼津高等女學校	大正十一年二月二十八日	山本美代子	神奈川縣立横濱第一高 等女學校	大正十年十二月二十八日
杉 園子	東京府立第五高等女學校	大正十年五月三十日	吉田 トミ	日本女子大學校附屬高 等女學校	大正十年十二月五日
杉江和歌子	東京女子高等師範學校 附屬高等女學校	大正十年六月二十六日	李 順 伊	朝鮮京畿高等女學校	大正六年三月十二日
相馬 誠子	茨城縣立水戸高等女學 校	大正十二年一月十七日	林 秀英	臺灣臺中州立彰化高等 女學校	大正十二年一月十日
	名古屋市立第一高等女 學校	大正十一年十二月廿五日	若宮 梅子	東京女子高等師範學校 附屬高等女學校	大正十一年一月二十一日

第七回全國幼稚園關係者大會記錄

十月七、八兩日に亘り仙臺市に開催せられました第七回全國幼稚園關係者大會は、非常の盛會を以て、斯所に貢獻いたしたと、既報の通りであります。その會の開かるゝまでの、主催者仙臺市保育會の御盡力は容易ならぬものであり、先づ感謝にた

えません。元來此の第七回大會は、一昨年開かれる筈で、仙臺市に於て用意されたのですが、支那事變の起つた爲に延期せられた次第でした。その開催の計畫も、仙臺市の大博覽會開催の計畫と併行してゐたものであり、われ／＼はまことによき機會とも思つてゐたのでした。然るに、時局の關係上、博覽會は無期限に延期せられ、この大會だけが開催せられたのです。これ幼稚園關係者が全國から集つて、その専門たる幼児教育の研究討議をすることは、時局下に於てもといふよりも、時局下に於てこそ、その急務の急なることであるからに他なりません。仙臺市保育會のその認識と熱意とに深い敬意を表せずにはあらません。従つて、會場に溢るゝものが、興亞日本の幼児教育者としての熱意であつたことも至當であります。但し、幼児教育

には幼児教育の本來の姿があつて、青年教育の場合などゝは、問題も實行も自ら異なるところがあるが、教育者としての精神と意氣との存するところは、一つに燃る如き興亞教育の精神であります。

さて、此の機會に於て申添へたいことは、此の全國幼稚園關係者の第八回が既に明年五月二十七、八日の兩日の大和檀原に於て、關西聯合保育會主催によつて開催せられることに決してゐる快報です。之れ、皇紀二千六百年の大いなる意義に基くことはいふまでもありません。實は、第八回は東京でといふ内議もあり、第六回大會でその話も出てゐた程なのですが、檀原に於ける開催の、更に意義深いことは申すまでもなく、東京側も大々の賛意を表した次第です。賛意などゝいふよりも、主催者たる關西聯合保育會の熱意に感謝し、滿腔の誠意を以て、その大々の盛會を祈つてやまないのです。時は皇紀二千六百年、處は檀原、眞に全國幼稚園關係者大會の實を完全に擧げたいと、祈つてやみません。

(倉橋生)

第一日 (午前九時開會)

一、開會式

- 1、開式の辭
 - 2、遙拜並默禱
 - 3、國歌齊唱
 - 4、勅語奉讀
 - 5、會長挨拶—仙臺市保育會長
 - 6、文部大臣訓辭
 - 7、祝 辭
官城縣知事
仙臺市長
 - 8、閉式の辭
- 二、議長推薦

三、報告 第六回全國幼稚園關係者大會大阪市保育會

四、議事

- 五、講演
- 六、見學(市内)
- 七、招待 仙臺市長

第二日 (午前八時三十分開會)

一、議事

二、研究發表

三、閉會式

- 1、會長挨拶
 - 2、出席者代表挨拶
- 四、見學(鹽釜・松島)

第七回全國幼稚園關係者大會議案

建 議 事 項

一、保姆養成機關を道府縣に必ず設置せらるる様其の筋に
建議するの件 (東京市保育會)

二、幼児教育の向上發展を期する爲め女子高等師範學校に
保育科を設置せられんことを其の筋に建議するの件

(神戸市保育會)

- 三、男女各師範學校に幼稚園及託兒所を附設せらるる様其の筋に建議するの件 (岩手縣保育會)
- 四、保姆資格認定中高等女學校卒業後二ヶ年以上實務に従事し成績優良者には當該園長の申請に依り無試験檢定資格を與ふる様關係大臣に本會の名を以て建議するの件 (福岡縣若松市若松愛國幼稚園)

協 議 事 項

- 一、新東亞建設の國策に則り幼兒教育を今後如何に進展せしむべきか (堺市保育會)
- 二、興亞保育の提携並進展策に關する件 (東京市中野區佛教保育協會)
- 三、戰死傷者遺族及家族の幼兒保育上に於て注意すべき點に關する件 (東京市中野區佛教保育協會)
- 四、青少年學徒に賜りたる勅語の聖旨を奉體し幼稚園教育

談 話 題

- 一、青少年學徒に賜りたる勅語に對し奉り幼稚園保育に於て實踐せられつゝある又は實踐せられんことをする方案を承りたし (東京市保育會)
- 二、非常時局に於ける幼兒の生活指導に就て承りたし又は

- 五、認可せられたる幼稚園に對し相當なる補助金交付方請願の件 (東京私立幼稚園聯盟)

- 六、各府縣に幼稚園專任の視學を置くの件 (東京私立幼稚園聯盟)

- 七、保姆の待遇を小學校本科正教員と同等の程度に改められんことを其の筋に建議するの件 (東京市保育會)

- 五、聖旨奉體に關し保育上の實踐事項如何 (群馬縣保育會) 撤回

- 六、幼稚園教育の重要性を理解せしむべき方案如何 (東京市保育會)

- 七、全國聯合保育會常設に關する件 (仙臺市保育會)

非常時局に於ける幼兒の躰に就て特に努力せられたる事を承りたし (岩手縣保育會)

- 三、文部省の夏季冬季休業中の心身鍛鍊に對する幼稚園の態度如何 (岩手縣保育會)

研究發表

- 四、時局下に於ける夏休に於て幼児の取扱につき考慮實施せられつゝある狀況承りたし（東京市保育會）
- 五、幼稚園を義務制とする可き可否承りたし若し可なりとせば其の實現方法承りたし（大阪市保育會）
- 六、幼児保育上興亞國策に沿ひ特に實施取扱事項承りたし（大分縣保育會）
- 七、幼稚園を経たる兒童と經ざる兒童とは小學校其の他に於ける學習上如何なる差違を示すや承りたし（仙臺市保育會）
- 八、託兒所保母の養成狀況承りたし（岩手縣保育會）
- 九、年中行事一覽表の御惠授を願ひたし若し繁鎖なりとせば其の園長の最も力を致せる點承りたし（福岡縣若松市 若松愛國幼稚園）
- 一〇、皇紀二千六百年を迎ふるに當り保育會又は幼稚園に於て計畫せる記念事業あらば承りたし（仙臺市保育會）
- 一、夏休中の幼児生活指導の一試案（東京市保育會 山村 吉よ氏）
- 二、大阪市幼稚園保育方針に就て（大阪市保育會 榎本琴氏）
- 三、和音感訓練と幼児の生活について（堺市保育會 佐藤 吉五郎氏）
- 四、幼児生活に適當なる敷地と迎送車に就て（青森市 青森幼稚園 今きよ氏）
- 五、幼児の發育形態に就て（東京市麴町幼稚園 竹内嘉兵衛氏）
- 六、本園に於て研究したる運動用具に就て（長崎市 玉ぞの幼稚園 荒木嘉弘氏）
- 七、幼児教育の特色を發揮せよ（東京市 目白幼稚園 和田實氏）
- 八、保育に於ける自然研究（大阪市 天使保育學校 吉田 源治郎氏）
- 九、遊戯の材料に就て（仙臺市保育會 三宅はる氏）

第七回全國幼稚園關係者大會

仙臺市保育會

時 昭和十四年十月七日(土) 八日(日)

所 仙臺市東二番丁尋常小學校講堂

來會者 南は臺灣より北は青森に至り遠くは南洋

關東州に及び全国各地幼稚園關係者五百餘名。

仙臺市長

7、閉式の辭

挨拶

第一日 (十月七日午前九時開始)

開會式

- 1、開式の辭
- 2、遙拜並默禱
- 3、國歌齊唱
- 4、勅語奉讀
- 5、會長挨拶—仙臺市保育會長
- 6、祝 辭

文部大臣祝辭

宮城縣知事

今回當市に於て第七回全國幼稚園關係者大會を開催致しました所北は青森より南は遠く南洋に亙り多數御出席を得ました上來賓各位の御臨席を辱う致しましたことは本會の欣幸とし且光榮を致しまして深く感謝の意を表するものであります。

願れば本會は回を累ぬるこそ茲に七回本邦幼兒教育の向上發展に資し國運の隆昌に寄與し來つたことは洵に御同慶に堪へない所であります。

抑々我國幼稚園教育の濫觴は明治九年の事に屬し爾來六

十有四年時代の進運に伴ひ堅實なる發達を遂げ今や幼稚園令の實施を見るに至つて全國各地に於ける其の設備内容等昔日に比して殆んど隔世の感があるのでありますけれども之を現代社會の實狀に照らし東亞新秩序建設の前途に顧み之に即應せんことを幼児教育に尙幾多の改善を研究を要するもの彌々切なるものがあるのであります此の秋に際し本大會の開催を見るに至りましたことは蓋し其の意義極めて深いものがあることを思はなければなりません。

冀くは御出席の各位宜しく其の使命の重大なるに鑿みられ保育の本質に立つて之が徹底を期するやう御提出になりました各種の重要議題に就き慎重審議熱心研究を遂げ有功適切なる結論を得て以て我國幼児教育に貢獻し時局に處して教育報國に邁進せらるゝ様切望して止まないものであります茲に開會に當り所懐の一端を陳べて御挨拶を致します。

昭和十四年十月七日

第七回全國幼稚園關係者大會會長

澁谷徳三郎

祝辭

本日茲に第七回全國幼稚園關係者大會を開催せらるゝ、惟ふに幼少時に於ける心身發育の狀態は人の一生を支配し將

來の大成の上に極めて重大なる關係を有するものにして幼稚園教育の重要性實に此に在りて謂ふべし。而して幼児の精神は恰も白紙の如く感善染汚共に頗る敏感にしてこれが環境に影響せらるるところ眞に大なり之斯教育の至難にして綿密慎重なる用意を必要とする所以なり。

冀はくは各位大いに抱負を經驗を披瀝して遺憾なく本大會の成果を擧げ教育振興の一翼を負擔して以て興亞國力の根基に培ふあらむことを一言所感を述べて祝辭をなす。

昭和十四年十月七日

文部大臣 河原田稼吉

祝辭

本日茲に第七回全國幼稚園關係者大會を開催せらるゝに當り一言祝辭を述ぶるの機會を得たるは余の最も欣幸する所なり。

顧るに幼稚園に關する制度は大正十五年の勅令を以て公布せられ幼稚園教育は本邦教育史上比較的較近の發達に係るものなり而も其の設置は之を希望者の任意となしたるにも拘らず最近に至りて著しく其の普及發達を見たるは是偏に關係者各位の多年斯教育に對する關心と熱意の賜物にして洵に慶賀に堪へざる所なり。

祝辭

第七回全國幼稚園關係者大會を當市に開催せられ出席會員五百餘名全國各地を網羅するの盛會を見るに至りましたことは斯道の爲洵に慶賀に堪へないものがあると共に本市の深く光榮する所であります。

惟ふに我國幼稚園教育の實施は遠く明治初年に溯り輓近顯著なる發達を示し來つたことではありますが之を先進諸國に比すれば諸般の施設經營に猶幾多改善を要すべきものがあるのであります此の時に當り我國斯界の權威竝に實際家を一堂に會して互に胸襟を披き各種重要案件に就き各自の蘊蓄を傾け其の所見を交換し研究討議を加へられますことは保育振興上貢獻する所必ずや多大なるものあるを信ずるものであります希くは各位慎重審議を盡くされ以て本會の使命を全うせらるゝ様切望に堪へない次第であります。

本大會に際し當市に於きましては御出席の各位に對し折角の御來會にも拘らず何等設備のないことは洵に遺憾でありますが藩祖伊達政宗卿の遺風を偲べれ東北振興の中心都市として躍進途上にある本市の交通、産業の現狀竝に學都としての教育一班を始め日本三景の一たる近郊松島の絶景及市の内外に散在する遺跡名勝等の御視察を賜はることを得ますれば最幸甚き所であります。

惟ふに幼稚園教育は家庭教育を裨補すべき使命を目的とするや論を俟たず而して最近の趨勢は兒童をして健全なる發達を遂げしめ善良なる性情を涵養せしめんには先づ幼時より之に着手するを優れりこなし斯教育の普及發達が一層強調せられ幼稚園は兒童就學以前の教育機關として最も重要な地位を占むるに至れり歐米諸國に於ても何れも重大なる關心を有し各獨自の立場に於て全力を傾注しつゝある所なり更に我が國幼稚園の現狀は將來尙一層の研究を努力を要する餘地あるを認むるの秋に當り本邦幼稚園の普及向上の上に幾多の功績を印したる本會の如き有力なる團體が非常時に即應する切實なる保育問題に付研究討議せらるゝは將來斯教育の改善發展上最も甚大なる推進力となるや言を俟たざる所なり實に幼兒保育の完全を期するは次代國民たるの素質を向上せしめ且銃後の護を一層強固ならしむる所以にして現下の時局に鑑み極めて緊要なることなり。

今や時局は重大にして益々人的資源の多種豊富を要望せらるゝの秋各位は愈々責務の重大なるを自覺せられ幼兒保育の完璧を期し以て大國民たるの基礎培養に邁進せられんことを一言冀望を述べて祝辭をなす。

昭和十四年十月七日

宮城縣知事 清水良策

茲に本大會の開會に當り其の成功を祈り併せて歓迎の誠意を披瀝致しまして一言祝辭を致します。

昭和十四年十月七日

仙臺市長 澁谷徳三郎

右了つて仙臺市保育會長代理として高橋市助役、假に議長席につき、本大會の司會者たる議長推薦の議を提言すれば全員一致、仙臺市保育會長を指名推舉する事となり、即ち高橋市助役は澁谷會長の代理として議長席につく。暫時休憩 午前十時再開

報告—第六回全國幼稚園關係者大會

二二五番(大阪 藤本ツギ)

第六回全國幼稚園關係者大會は昭和六年大阪市で開催されたのであつたが、文部省諮問案については取纏めて提出・建議案の中可決したものはそれ／＼書類提出と共に促進運動の爲、大阪市のものが三名上京、時の松田文相に陳情致しました。

協議題や談話題等も處理致してあります。

次回開催地については仙臺市と決定致して散會したのであります。——(大要——)

緊急動議

四四番(東京 田島眞治)

1、宣言 決議の件

本大會に於て吾々の重大使命を宣言し、決意を議決して世に

公表する事は最意義ある事と思ふが故に茲に宣言決議を議したい、その起案等は議長指名の委員附託とする事。

2、滿支派遣皇軍將兵に對し感謝電報發送の件

全國各地から集つたこの大會の名に於て出征皇軍將兵に感謝の電報を發したいのであるが、その方法手續等は本市役員に委嘱したい。

六五番(東京 竹内嘉兵衛)

澁谷仙臺市長病氣見舞の件

私は本大會開催に最深き理解と熱心をもつて御世話を下さつた本市の澁谷市長さんが御病氣中と聞いたが本會の決議によつて御見舞申上げたい。

その人員、方法、時機等は議長一任とする。

議長

只今の四四番並六五番の提出案を議題として差支ないか。

と諍れば 異議なく成立

宣言決議案については 田島眞治氏外四名

感謝電報案については 内山憲尙氏外四名

澁谷市長見舞の件については竹内嘉兵衛氏外四名の委員附記並に代表者を決定した。

五八番(東京 土川五郎)

1、青葉神社並に護國神社代參の件

當地藩祖伊達政宗公を祀る青葉神社並に盡忠報國の英靈を祀る護國神社へ本會代表の參拜方を提議する。

2、第二師團及陸軍病院の訪問、慰問の件

滿洲事變以來今次事變に赫々たる武勳を樹てた第二師團及今回の戰役に於て名譽の戰傷病將士を御慰問する事は時局柄最時宜を得たものと思ふが故にこの案を提出するが、その方法、人選等は擧げて議長一任としたい。

議長

只今の動議に異議なきや

を諍れば滿場拍手を以て一決、依つて

- 七番 (東 京 青柳義智代) 二〇二番 (前橋 春山福之助)
 - 一五八番 (新 潟 倉田 ミス) 一六八番 (富山 佐倉 シゲ)
 - 二〇一番 (岸和田 佐藤 滿壽) 二六八番 (岡山 高原 寅)
 - 三六六番 (白 石 酒井 規) 四二四番 (仙臺 齋藤重太郎)
 - 四八三番 (浦 和 長沼 依山) 番外 (岩井)
- の十名を指名、直ちに出發する事となつた。

議長

これから日程によつて協議題を上程する事に致します。

二五六番

議事進行について申し上げますが、協議題一、二、三號案を一括上程されたい。

議長

今の發言に對し異議なきや

二〇番より趣旨異なる故を以て異議あつたが
 大多數の賛成により一括上程に決す。
 依つて議長は提案者の説明を求める。

協議事項

第一號議案 新東亞建設の國策に則り幼兒教育を今後如何に進

展せしむべきか、(堺市保育會)

二一五番(堺市 北山ナホ) 説明

第二號議案 興亞保育の日滿支提携並進展策に關する件(東京

市中野區佛教保育協會)

二〇番 (東京 高木亮範) 説明

第三號議案 戰死傷者遺族及家族の幼兒保育上に於て注意すべ

き點に關する件(東京市中野區佛教保育協會)

七番 (東京 青柳義智代) 説明

議長 質問はありませんか、なければ意見の發表を願ひます。

二三一番 (大阪 牛島トメヨ)

七四番 (東京 高崎 能樹)

四一番 (東京 加藤 武夫)

の意見の發表があつたが

二五一番 (神戸 安井八十二)

この問題は重大であるが時間も大分經過してゐるので、委員

附託とし慎重審議されたい。

委員の數、氏名は議長に一任する。

議長 二五一番の動議があるが如何に取扱ふか

と諍る、滿場異議なく動議成立、委員附託に決す。委員指名

を後刻に廻し、第四號案を上程。

第四號議案

青少年學徒に賜りたる勅語の聖旨を奉體して幼稚園教育を振

興刷新せしむる具體的方案如何。(岡山市立幼稚園)

二六八番 (岡山 高原寅) 説明

議長 この問題は委員附託として具體案を練つては如何。

満場異議なく、委員附託に決定。

議長 第五號議案は提出者から撤回となつたので、第六號議案を上程致します。

第六號議案

幼稚園教育の重要性を理解せしむべき方案如何。

(東京市保育會)

五二番 (東京 齋藤小靜) 説明

議長 質問がないやうであるから意見發表を願ひます。

四一番 (東京、加藤 武夫)

二八九番 (長崎、荒木 嘉弘)

七四番 (東京、高崎 能樹)

から交々意見の發表があつたが

二〇番 (東京 高木亮範) から委員附託の動議があつた。

議長 二〇番の動議に異議ないか

と諮り、異議なく、動議成立、後刻委員を委嘱する事に決す。

議長 第七號議案を上程致します。

第七號議案

全國聯合保育會常設に關する件(仙臺市保育會)

三七七番 (仙臺 石川一壽) 説明

本大會は、第七回となつてゐるがその母體は其の都度勸誘して纏まる程度で常設的のものがないのは遺憾である。従つて建議も協議も其の効果が薄い。依つて常設的に本會を組織さ

りたい。

然し乍ら、これが實現は甚だ困難を伴ふが故に先づ以て東京市に其の組織の斡旋を願ひたい。

かやうな意味で協議を進めたいと思ふ。

議長 御意見を伺ひます。

二〇番 (東京 高木亮範)

只今の提案には賛成である、速かに

1、有機的・恒久的の會に組織されたい。

2、東亞の指導性からして完全に提携すること。

3、建議や協議の實現をはかる上からも必要である然しながら

提案者説明の中に東京方面に斡旋を頼むといふが、全國から

集まつて相談するやうに望む。

二七六番 (東京 松岡唯介)

1、紀元二千六百年の記念事業として本會を組織したい。

2、全國の有識者により完全なるものを作りたい。

3、總裁には高貴の方を仰ぎ幹部には有力なる方々を網羅され

たい。

一番 (東京 内山 憲尙)

幸ひに今回は全國から集つてゐるのであるから茲で委員を選

議長

種々の御意見はあるが、東京を中心とし今回の主催地、次回

主催地、其の他と協議して、健全なものとしては如何。

三二番 (東京 和田 實)

重大なるものなるが故に現在の出席者を中心とし全團的に大綱を申合せておいた方がよいと思ふ。

三二七番 (福島 田代 文彌)

設立には異議はない、東京市に草案を委嘱しては如何。

議長 設立準備委員を擧げて、この問題を處理しては如何。

二二二番 (大阪 畦向地榮太郎)

東京を中心として準備せられよ

七四番 (東京 高崎能樹)

議長と倉橋先生と相談の上委員を選定されたい。

二〇番 (東京 高木亮範) 採決せられたい。

議長 準備委員を設ける事とし其の數や氏名は議長に一任されたい。

異議なく決す。

議長 協議事項は一應終了したので其の結末として委員を指名致します。

協議案 第一、二、三號議案

一番 外一四名

同 第四號議案

一〇番 外一四名

同 第六號議案

三二番 外一四名

同 第七號議案

三二番 外二二名

以上各號議案に地元から番外一名づゝを加へます。

右終つて 次回大會の會場の協議に入り、關西保育會の安井八十二氏立つて、皇紀二千六百年を記念し、關西保育會主催、期日は明年五月下旬若しくは六月上旬、場所は聖地檀原に於て開催のことに御讃同を得たいと感激の挨拶があり、拍手裡に決定した。

午前部を終るや仙臺市保育會は市立幼稚園創立當初からの保母で五十年の歲月、幼児教育に其の一生を捧げた功勞者橋本よしぢ女史の表彰式を擧行した。

女史は齡八十にして猶健在、先年其の職を退き家庭にあり、たゞくしい足ざりを若い保母に手を引かれ、會長から表彰状を受くれば五百會員の視線は一齊に注ぎ込む。日本で第二位の古い歴史を有する仙臺市東二番丁幼稚園の育ての母で、女史が力ある音聲で謝辭を述べれば會衆の中には感激の嗚咽さへ聞えた。

式 辭

第七回全國幼稚園關係者大會を機とし茲に幼稚園功勞者表彰式を擧行するに當り多數來賓各位の御參列を賜はり一段の光彩を添へられましたことは本會の深く光榮とし感謝致す所であります。

只今表彰せられました橋本よしぢ女史には本市に幼稚園を創立致しました當初より五十三年の久しきに亙り獻身保

育の實際に力を效され獨り東二番丁幼稚園の爲のみならず
汎く本市並縣下幼稚園事業振興の爲寄與せられました御功
勞は極めて顯著なるものがあつたのであります。女史が斯
かる長年月の間膝下に愛育訓陶せられました數千の教兒は
今や何れも有用の材となり國家の進運に貢獻して居るので
あります。是を以て各種の表彰又は感謝を受けられました
こゝは枚擧に遑ない程であつて全く全國稀に見る幼兒教育
の功勞者であられるのであります。

女史が生涯の殆んゞ凡てを常に彼の殉教者に於て初めて
見らるゝやうな愛と熱を以て終始一貫聖職に全身全靈を
捧げられました其の崇高な御人格と甚大なる御功績とに對
して吾人の敬慕と感謝とを禁ずることが出来ないものであり
まして今回の表彰の榮譽を膺はれ永遠に我保育史上に令名
を貽されましたことは洵に慶祝に堪へない所であります。

惟ふに幼稚園教育の前途には尙改善と努力を要するも
のが多々あるのであります。女史今や功成り名遂げ悠々自
適の境地にあられましても更に一層御自愛に相成り多年の
蘊蓄と體驗とを以て將來斯道發展の爲に後進を啓發誘導せ
られます様切に冀ふものであります。茲に一言を述べ滿腔
の謝意と祝意とを表して式辭と致します。

昭和十四年十月七日

仙臺市保育會長 澁谷徳三郎

午後一時 再開

議長、建議案 第一號議案を上程致します。

第一號議案

保母養成機關を道府縣に必ず設置せらるゝ様其の筋に
建議するの件(東京市保育會)

四四番 (東京 田島眞治) 説明

議長 御意見をうかがひます。

二七六番 (東京 松岡唯介)

「必ず」といふ事を緩和しては如何、卒業生の消化問題もある
事であるから「道府縣の實狀に照して」といふやうにしたらよ
いと思ふ。

四四番 (東京 田島眞治)

消化の困難等は考へやうによつて解消する問題である。

二二二番 (大阪 向畦地榮太郎)

趣意には賛成である、特に幼稚園の教育の義務制を前提とし
て必要と思ふ。

二五二番 (神戸 望月 クニ)

實狀を考へて見ると私の縣(兵庫)では數年前までは志望が少
かつたが最近は多くなつてゐる、本問題は時宜に適したものと
思ふ。

四八三番 (浦和 長沼依山)

幼兒教育の進展、均霑の上からこの要求は當然である。建議

は各府縣か、又は文部省へか？

四四番 其の筋とは文部省である。

議長 採決致します。

満場一致賛成、可決。

議長 建議第二號案を提案します。

第二號議案

幼兒教育の向上發展を期する爲め女子高等師範學校に保育科を設置せられんことを其の筋に建議するの件

(神戸市保育會)

二五二番 (神戸 望月 クニ) 説明

幼稚園教育の向上發展を阻害する原因は保姆の素質の低下によることが多い、依つてこの問題解決の爲に本問題を提出したものである。

議長 速決して如何ですか。

満場異議なく 可決。

第三號議案

男女各師範學校に幼稚園及託兒所を附設せらるゝ様其の筋に建議するの件(若手保育會)

三〇八番 (盛岡 四戸 熊藏) 説明

議長 異議はないか。

可決致しました。

第五號議案

認可せられたる幼稚園に對し相當なる補助金交付方請

願の件(東京私立幼稚園聯盟)

二一番 (東京 福田 てる) 説明

議長 賛成の聲があるが可決してよいか

異議なく可決す。

第四號議案

保姆資格認定中等女學校卒業後二ヶ年以上實務に従事し成績優良者には當該園長の申請に依り無試験檢定資格を與ふる様關係大臣に本會の名を以て建議するの件(福岡縣若松市若松愛國幼稚園)

二八八番 (若松 有馬 一驍) 説明

二一一番 (布施 河野 顯達)

この問題は考慮を要する、反對である。

二〇番 (東京、高木亮範) 反對

二七六番 (東京 松岡唯介) 反對

議長 採決致します。

反對者多く、否決す。

以上を以て打切り、東京女高師倉橋教授の講演があつて午後三時から四班に別れて市内見學、同六時、ブラザー軒の仙臺市長の招待會に臨んだ。

仙臺市長招待會

會場西洋料理ブラザー軒に殆んき全部の來會者を迎へ定

刻賑々しく開會が宣せられ、澁谷市長代理高橋助役の挨拶あり、之に對して久留島武彦氏一同を代表して謝辭を述べられたがユーモアに富む氏一流の巧妙なる挨拶振りにヤンヤミ喝采を博し早くも和かなる氣分堂に滿ち交驩はそれからそれへこ流れた。續いて小學兒童の詩吟にその妙なる韻律を愛で、「さんさしぐれ」「わしが國さ」の郷土舞踊に見惚れ、設けの會食に移つたが、テーブルスピーチが持ち上り、西村眞琴氏の「さんさしぐれ」の禮讚、望月クニ氏の懷舊談に一段の盛況を添へた。最後に一同愛國行進曲を齊唱し十二分の歡を盡して午後八時閉會を告げた。

途中迷子にならぬやうにさの心遣ひから各旅館からの出迎者が門外に待ち受けて居つた。

第一一日（午前八時三十分開會）

議長 本日は先づ第一に昨日の委員附託の問題について

委員長の報告を願ひます。

四四番（東京 田島眞治）

宣言

今次聖戰をして有終の美を濟さしむる所以のもの蓋し次代國民の教養より大なるはなし我等は深く思ひを茲に致し聖訓に恪遵して幼兒保育の根柢に培ひ健全なる人生の礎石を確立するに共に家庭を擁護し國力培養の素因をなして

保育報國の實を擧げ皇恩に答へ奉らむことを期す
右宣言す

決議

- 一、吾等は青少年學徒に賜りたる勅語の聖旨を奉戴して幼兒保育の重責を全うせんことを期す
- 一、吾等は時局に鑑み一層幼兒保育の重要性を認識し健全なる心身の發達善良なる性情涵養に萬遺憾なからんことを期す
- 一、吾等は時勢の進運に伴ひ修養研鑽之れ助め保育の眞義を究め教育愛に徹し以て國民長養の實を擧げんことを期す

右決議す

昭和十四年十月七日

第七回全國幼稚園關係者大會

慎重審議右の通及報告候也

昭和十四年十月七日

委員	委員長
田島眞治	四四
岩村安子	一四
小谷きみ	一五三
菅沼芳子	一七三
中根ゆた	二四二
海野八郎	二四三
山崎とき	二五三

協議題

委員	二九一	石原ユキ
”	二九五	小山田節子
”	番外	氏家丑治郎

第一 新東亞建設の國策に則り幼児教育を今後如何に進展せしむべきか

(堺市保育會提出)

- 一、健全なる精神の基礎陶冶に努むること
- 1、皇室尊敬神崇祖の念竝に之が作法を教ふること
- 2、適切なる方法により時局を認識せしむること
- 3、繪畫、談話、唱歌等により日滿支親和の性情を培ふこと
- 4、獨立自治の習慣態度を養ふことに勉むること
- 5、和親、協同の性情を涵養すること
- 6、快活、明朗なる性情育成につとむること
- 7、保育者は時局に對する認識を一層高むること
- 二、強健なる身體の育成に努むること
- 1、時々健康診斷をなし發育狀況を認知し之に對する適切な處理を迅速に行ふこと
- 2、榮養食竝榮養劑を給與すること
- 3、偏食矯正に勉むること
- 4、毎月一回寄生蟲驅除を行ふこと
- 5、屋外生活の奨励に努むること
- 6、齒齲、咀嚼の習慣を養ふこと
- 7、其の他衛生上の善良なる習慣を養ふこと

- 8、保育者の健康増進を圖ること
- 9、保育者をして幼児衛生に關する知識竝看護の素質を有せしむること

第二 興亞保育の提携竝に進展策に關する件

(佛教保育協會提出)

- 一、日滿支保育事業關係者の會合を開催する機運を促進すること
 - 二、日滿支保育に關する學說竝に教材の交換
 - 三、滿支保育事業關係者の日本内地見學視察竝に留學の途を開くこと
 - 四、保育事業關係者を滿支保育事業視察を兼ねたる親善使節として送る途を講ずること
 - 五、日滿支幼稚園兒の製作品の交換をなすこと
- 第三、戰死傷者遺族及家族の幼児保育上に於て注意すべき點如何
- (佛教保育協會提出)
- 一、忠靈及戰傷者に對する敬虔感謝の念を養ふこと
 - 二、戰死傷者出征の遺族及家族の園兒に對し適切な方法を講ずること
 - 1、優偶の途を講ずること
 - 2、その榮譽を自覺せしむること

三、幼稚園當事者は遺兒の母親との協力に努むること

右調査報告候也

昭和十四年十月七日

委員長	七四	高崎能樹
委員	一	内山憲尙

委員 七 青柳義智代

二〇 高木亮範

二八 水野世志

三六 山内勇仙

四一 加藤武夫

四五 藤谷聯三郎

一七四 鹽釜義詮

二一五 北山ナホ

二三一 牛島トメヨ

二五一 安井八十二

二五四 田中スエ

二七八 中村晃哉

四三六 山田光秀

協議題

第四號議案

青少年學徒に賜はりたる勅語の聖旨を奉體して幼稚園教育を振興刷新せしむる具體的方案如何

(岡山市立幼稚園提出)

一、保姆の人格育成に努むること

1 青少年學徒に賜はりたる勅語謄本の寫を幼稚園に奉獻すること

2 青少年學徒に賜はりたる勅語に對し保姆自ら深き感激を持つやうに日當心掛くること

二、保育内容の刷新をなすこと

① 皇國の幼兒たることを知らしむること

1、宮城を遙拜せしむること

2、國旗の尊嚴なることを知らしむること

3、神社を參拜せしめ敬神の念を養ふこと

4、談話等には成るべく話材を國史に求め國體を知らしむるやう努むること

5、五月二十二日勅語御下賜記念日には適切なる施設をなし實行すること

② 快活明朗にして強き性情を涵養するやう特に留意すること

1、成るべく依頼心を抑制し幼兒をして自ら動作するやう奨けること

2、服装携帯品等は質素を旨とし絶體に華美に流れしめざること

3、特に團體的の規律を奨けるやう努むること

4、快活にして辛抱強く躰けること

③ 特に幼兒の健康保育に努むること

1、衛生設備を十分にし幼兒の養護上遺憾なきを期すること

2、特に傳染性疾患の豫防に萬全を期すること

3、幼兒に適切なる體育施設の徹底を期すること

4、晝食は成るべく榮養價大にして價廉なるものを共同給食せしむるやう施設をなし偏食の矯正等にも資すること

5、毎月御下賜當日を記念するため鍛鍊的遠足をなすこと

④ 時局に關心を持たしむること

第六 幼稚園教育の重要性を理解せしむべき方策如何

(東京市保育會提出)

右に關し委員會に於て審議決定せる事項左の如し

- 一、根本問題として幼稚園は先づ自ら戒めて各園の相剋を避け、保母の修養を高め、教育の効果を收むることに依つて如實に幼稚園教育の美しき効果を示現することが最も必要なりと思惟す、此根本的努力を傾注する外に尙左記の方法を採ること必要なり

二、當局者の理解を深からしむる方法

- 1、視學を置くこと
- 2、法令を改正すること
- 3、義務年限延長
- 4、學齡改正
- 5、設立者限定等

三、小學校教員の理解を深むること

- 1、擔任者會議
- 2、師範學校教育科の内容改善
- 3、尋常第一、二學年の教授改良
- 4、其擔任者考慮

四、一般家庭及社會に對する宣傳

講演會、ラヂオ、パンフレット、展覽會の方法に依つて行ふ其他保育講習會、新聞等を利用すること

尙本問題は全國的保育會の結成に依つて多大の良効果を收むるものあることを茲に附言す

努むること

三、家庭に認識を深めしむること

- 1、記念日には母を參列せしむること

- 2、毎月一回母の會を開き聖旨の徹底を圖ること

右調査及報告候也

昭和十四年十月七日

委員長	三四八	高師廣吉
委員	一〇	新井歟太郎
	五二	齋藤小靜
	六五	竹内嘉兵衛
	六六	坂内ミツ
	七四	高崎能樹
	一一五	山口せ人
	一三〇	加藤カツ
	二三一	牛島トメヨ
	二六五	松平光
	二六八	高原寅
	二六九	大林孫治
	二七三	熊谷勝圓
	二八六	松村茂
	四八三	長沼依山
番外		木村元

協議題

右調査報告候也

昭和十四年十月七日

委員長	委員
三二	和 田 實
五二	齋 藤 小 靜
五五	穂 積 篤 子
五八	土 川 五 郎
六八	及 川 ふ み
八六	山 田 仲 子
一一一	山 路 伊 一 郎
二二三	富 是 ま 子
二三五	和 田 信 藏
二五二	望 月 く に
二六四	迫 田 ま つ
二八一	瀬 尾 完 太
二九〇	高 崎 吉 人
三三五	松 山 い ね
三八一	那 須 靜
三八八	平 野 已 蕙 子
四七八	近 衛 主 賢

議長 これから研究發表を承る事と致します。

一、夏休中の幼児生活指導の一試案
 東京市保育會 山 村 き よ 氏

二、大阪市幼稚園保育方針に就て
 大阪市保育會 榎 本 琴 氏

三、和音感訓練と幼児の生活について

堺市保育會 佐藤吉五郎氏

四、幼児生活に適當なる敷地と迎送車に就て

青森市青森幼稚園 今 き よ 氏

五、幼児の發育形態に就て

東京市麴町幼稚園 竹内嘉兵衛氏

六、本園に於て研究したる運動具に就て

長崎市玉その幼稚園 荒 木 嘉 弘 氏

七、幼児教育の特色を發揮せよ

東京市目白幼稚園 和 田 實 氏

八、保育に於ける自然研究

大阪市天使保育學校 吉田源治郎氏

九、遊戲の材料に就て

仙臺市保育會 三 宅 は る 氏

午前十時半、閉會式は會長挨拶の後出席者代表として大連市譚家屯幼稚園の小山田節子氏の謝辭あつて大會は全く終り、同十一時より名勝鹽釜、松島方面へ見學の爲出發した。

鹽釜、松島見學

惠れた絶好の秋日和を浴びて、國幣中社鹽釜神社の社前に額つき武運長久國運隆昌を祈願した敬虔なる態度は長く長く忘れぬ思出であらう。尊き神符を推し戴く多くの人

人の心境には如何なる事情心願が秘められてゐるごさか。

千賀の浦二隻の汽船に分乗して、小春日和に照り映える千松島を賞する心地よさは何にも譬へるごさは出来ない。

「あゝ松島や松島や」の句も思ひ出される。松島驛にては瑞巖寺の古刹を訪ひ、五大島、観瀾亭を指顧の中に望み、新装を凝せるニューバークホテルの偉觀を最後に上首尾に解散を告げごさごに二日間に亙る豫定の行事を完全に終了した。

尙今回の大會の開催に際し、左記各位には本大會の趣旨を賛し頭書の金品を寄附せられ多大の便益を與へられた。爰にこれを録して满腔の感謝を表する次第である。

記

寄附芳名

- 一 金貳百圓也 フレーベル館社長 高市 慶雄 殿
- 一 ライオン齒磨及同齒刷牙袋入壹千個
ライオン齒磨本舗 小林 商店 殿
- 一 大封筒 八百枚

東洋圖書株式合資會社 殿

一 特選幼稚園童話曲集 八百部

大日本雄辯會講談社 キングレコード 編修部 殿

○いよ／＼今年もおしせまりました。時局下のこの一年間を回顧致しますと吾が保育界も亦誠に多事でございます。併し吾々は今は、保育の進むべき道を掴み得たと思ひます。来る年もまた元氣に緊張して斯の道にいそしみ度いと存じます。皆様御機嫌よく御越年の程祈つて居ります。

○本誌が皆様の雜誌であるやうにと常に心掛けて居りますが、來年もどうぞ今迄どほり、御叱責やら御鞭撻を賜はりましてよりよきものに御はぐみ下さいますやう御願ひ致します。又どうぞごん／＼御寄稿下さいますやうに御願ひ致します。

(編輯部)

本誌總目錄

一月號

卷頭(實際に擔ふ者の力)
 幼稚園關係者諸氏へ
 幼児の發達程度を検せよ
 「新體幼稚園唱歌」の唱ひ方
 事變下に於ける談話とその取扱
 朝鮮だより

内鮮幼児を保育して
 朝鮮保育會の過去と現在
 幼兒へのラヂオ
 子供の虚言—眞實への教育(一)
 殘花聚園
 偏食の話
 子供の齒は母親の責任
 記念展覽會を開催して
 保育用品研究會第一回狀況報告
 ハイデイ—ヨハンナ・スピリ原作—
 二月號
 卷頭(二月の朝ひる)

倉橋惣三	三	倉橋惣三	三
下村壽一	二	倉橋惣三	三
堀七藏	三	津田芳雄譯	五
小松耕輔	二	みどり會幹事	五
内山憲堂	四	青柳節子	七
麻柄トヨ	四	津田芳雄譯	五
金聖愛	六		
森本勉	七		
倉澤剛	三		
石川謙	六		
藤本薰喜	六		
湯淺泰仁	五		
青柳節子	七		
みどり會幹事	五		
津田芳雄譯	五		
倉橋惣三	三		

子供を理解せんとする母の努力
 子供の虚言—眞實への教育(二)
 雛人形

幼稚園に於ける齒科衛生施設
 日本の子供は日本の母の手で
 肖像模倣に於ける幼児の個性と注意の研究

劇あそびの脚本
 満洲だより
 フレーベル賞入選童話
 かくれんぼ

南京城
 ハイデイ—ヨハンナ・スピリ原作—

三月號

卷頭(わかれの日に)
 教育審議會の答申に於ける幼稚園に關する部分
 精神の發達には遅速あり
 虚弱兒の食物に就いて
 蜜蜂の生活断片
 いばら大將
 殘花聚園(四)

石川謙	二	倉橋惣三	三
倉澤剛	四	古川竹二	七
及川ふみ	七	藤本薰喜	三
山田仲子	九	久米又三	六
竹村一	三	石井庄司	三
森たよ	九	石川謙	六
山村きよ	元		
田中美枝	五		
N子	七		
直野カツ	四		
津田芳雄譯	五		
倉橋惣三	三		

保育ノートの中から

春が来た

フレール賞入選童話

寛さんと蟹

蝶々の蜜採り

不思議な玉

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

四月號

巻頭(迎へる心)

日本の幼稚園

新入園児の父兄に告ぐ

幼児の時間觀念

幼児に對する數へ方の指導

蜜蜂の生活斷片

幼児觀察の一調査

巨人物語

給食と幼稚園

その頃

園庭に於ける遊びと動きの調査

ある一男児の保育日記をめぐりて(二)

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

清水光子……三
S K……三

佃孝……七

石原三重……〇

三浦秀……〇

津田芳雄譯……〇

倉橋惣三……一

倉橋惣三……二

和田實……六

依田新……三

田代順之……六

久米又三……〇

弘田芳弘……三

石井庄司……三

坂内ミツ……三

K 子……〇

青柳節子……〇

杉山米子……〇

久米京子……〇

津田芳雄譯……〇

五月號

巻頭(辨)

季節保育所の問題

幼児の生活調査

健康保育座談會

蜜蜂の生活斷片

年長組になつた幼児

鬼と鏡

殘花聚園(五)

蛙さんの遠足のお話

一男児の保育日記をめぐりて(二)

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

倉橋惣三……一

倉橋惣三……二

牛島義友……七

久米又三……〇

及川ふみ……七

石井庄司……二

石川謙……三

武田雪夫……三

杉山米子……〇

久米京子……〇

津田芳雄譯……〇

六月號

青少年學徒に賜はりたる勸語

幼稚園の對象

幼稚園新唱歌

雨

日光浴の話

殘花聚園(〇)

縫はずに着る洋服

幼稚園の遊戯と體育

倉橋惣三……一

倉橋惣三……二

牛島義友……七

久米又三……〇

及川ふみ……七

石井庄司……二

石川謙……三

武田雪夫……三

杉山米子……〇

久米京子……〇

津田芳雄譯……〇

倉橋惣三……一

小松耕輔……七

林太耶……〇

萩原兼文……〇

石川謙……七

石井庄司……〇

津田芳雄譯……〇

雨の日の幼稚園

自由遊びと手技

雨の日の観察あそび

遊戯

談話唱歌

小さい畑

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

七月號

國策遂行の支部機關としての幼稚園及學校

夏の育兒漫談

創設一年後の所感

關西保育界に於ける童話

幼兒の「家の畫」の研究

殘花聚園(七)

精神缺陷者の爲めの幼稚園の必要性につい

て保育關係諸氏に懇ふ

白鳥の童女

水と子供

或日の觀察

子供との問答

關西保育會提出遊戯

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

八・九月號

保姆の敬養

健全な精神は健康な身體に宿るか

夏日漫筆

森川先生の御退官

殘花聚園(八)

正男さんの井戸

戸外の自由遊び

幼稚園と尋常小學校との連絡に關する資料

調査(一)

なりがみお月様とたぬき

童話話お月様とたぬき

幼兒に讀んで聞かせるお話

仲よし子兔さんのお話

子供達の幼稚園時代の健康狀態

小さな試み

幼稚園の時局的注意事項の二點

芝居出征・戰場

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

十月號

第七回全國幼稚園關係者仙臺大會

津田芳雄譯……………七

倉橋惣三……………一

牛島義友……………三

曾根保……………七

會澤タガエ……………三

石川謙……………五

石井庄司……………元

及川ふみ……………五

東京市保育會……………五

内山憲尙……………五

武田雪夫……………六

久米京子……………六

徳久智江子……………六

……………六

菊池ふじの……………九

津田芳雄譯……………七

……………七

……………七

……………七

倉橋惣三……………一

保育の特色何故發揮せぬか

秋

秋と幼児の健康

健康と食物

柿と栗

秋の野草

残花聚園(九)

鶯と鶺鴒

杜城偶感

幼稚園と尋常小學校との連絡に関する資料調査(二)

幼時の追憶

この夏

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

十一月號

保育實際家の貴さ

新支那の教育復興を視る(一)

秋晴

幼稚園の運動會

幼稚園に於ける運動會と遠足

運動會と遠足

私共の運動會と遠足

觀察紅葉と落葉資料

和田 實……四

齋藤 文雄……九

近藤 耕藏……三

堀 七藏……七

藤澤 六馬……〇

石川 謙……五

石井 庄司……元

F・F……三

東京市保育會……三

曾 根 保……三

倉 橋 惣三……六

津田 芳雄譯……五

倉 橋 惣三……一

倉 澤 剛……四

佐々木 等……六

土川 五郎……八

蒔 田 ソヨ……三

高 橋 タツ……六

堀 七藏……三

殘花聚園(十)

椿の兵隊さん(風土記から)

橋本よしぢ女史

幼稚園と尋常小學校との連絡に関する資料

調査(三)

本園の綜合大運動遊具

仙臺二日

ことばづかひ

雜報

全國兒童保護大會

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

十二月號

國民保育者

新支那の教育復興を視る(二)

松と竹

冬期・幼稚園に於ける疾病豫防

殘花聚園(十一)

餅的的(風土記から)

北國の冬の幼稚園

幼稚園と尋常小學校との連絡に関する資料

調査(四)

幼時の追憶

ハイデューヨハンナ・スピリ原作

第七回全國幼稚園關係者大會報告

石川 謙……四

石井 庄司……六

倉 橋 生……三

東京市保育會……三

荒 木 嘉 弘……五

倉 橋 生……四

小 島 那 子……四

津田 芳雄譯……六

倉 橋 惣三……一

倉 澤 剛……五

堀 正 一……九

廣 瀬 興……三

石 川 謙……六

石 井 庄 司……三

今 き よ……五

東京市保育會……七

曾 根 保……三

津田 芳雄譯……四

仙臺市保育會……三

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事 倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ關係
 - 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應ジテニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳圓拾錢	金拾圓
一年分	金四圓拾錢	金拾圓	金拾圓
拾貳冊	送金四圓拾錢	金拾圓	金拾圓
拾貳冊	送金四圓拾錢	金拾圓	金拾圓

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）
 昭和十四年十一月二十八日印刷納本
 昭和十四年十二月一日發行 行
 幼兒の教育 第三十九卷 第十二號

不許複製 禁止轉載

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 編輯者 倉橋 惣三
 發行所 柴山 則常
 印刷所 柴山 則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷所 柴山 則常
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 振替口座東京一七二六六番

發行所 日本幼稚園協會

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總て郵増)
- 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたします。其節は早速御送金の願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

大阪市幼稚園共同研究會第六區御編纂

構成を分と
主としたる
幼稚園遊戯の保育要諦

全二卷

第一卷 動作集 定價金三圓
第二卷 曲譜集 定價金二圓

體裁 四六倍版
總ヶロス厚表紙本綴

幼稚園に於ける遊戯が、幼兒の自由な生活活動に重きをおき、之を適切に誘導し、唱歌遊戯、模倣遊戯及び競争遊戯を加へて、幼兒をして興味の中に自と心身の發達を促進さすべきものでありますが、その多くは單なる方法上の練習や、歌詞による方便的身振動作に終始し、或は偏運動に、又は觀覽効果を狙ふ等、教育的價値の疑はしきもの多きを遺憾とし、大阪市幼稚園共同研究會第六區の所屬十一園の研究部員諸氏が眞摯なる研究に歿頭すること實に二年有半の日子を費して成つたものであります。

遊戯運動の構成、その發展的系統配列、並にその指導上の注意に至るまで、遊戯に於ける幼兒保育の要諦は之を悉く網羅してあります。

所行發

食館ルへーレフ 社會式株

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東 社本
番七二八三
番八三九一(24)話電・五町後備・區東・阪大 店支